

# 発達障害児(者)及び医療的ケア児実態調査 報告書【概要版】

令和2年3月  
川崎市



# 目次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象者.....	1
3. 調査期間.....	1
4. 調査方法.....	1
5. 調査票配付・回収状況.....	1
6. 報告書の見方.....	2
<b>II 発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者調査結果</b> .....	<b>3</b>
1. 記入者等.....	3
2. 対象者の属性.....	4
3. 発達障害の診断、受診内容等について.....	6
4. 日中の生活について.....	9
5. 就労について.....	11
6. 家族や介護の状況について.....	14
7. 災害対策について.....	17
<b>III 医療的ケア児の保護者調査結果</b> .....	<b>20</b>
1. 記入者等.....	20
2. 医療的ケアを必要とする子どもの属性.....	20
3. 日中の生活について.....	23
4. 心身の状態について.....	23
5. 家族や介護の状況について.....	25
6. 医療的ケアに伴う家族の不安等について.....	30
7. サービス利用について.....	31
8. ホームヘルパー等による医療的ケアについて.....	34
9. 災害対策について.....	35



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

発達障害児（者）及び医療的ケア児の実態を把握することによって、第2期障害児福祉計画の策定に向けた基礎資料を得るため調査を行う。

## 2. 調査対象者

- A：発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者
- B：医療的ケア児の保護者
- C：保育園
- D：幼稚園・認定こども園
- E：小・中・特別支援学校
- F：障害福祉サービス提供事業所
- G：病院・診療所（訪問看護ステーション含む）

## 3. 調査期間

- A・B：令和2年2月1日～令和2年2月28日（3月10日回収分までを集計）
- C～G：令和2年2月1日～令和2年2月21日（3月10日回収分までを集計）

## 4. 調査方法

- ・調査票A（発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者）は、障害福祉サービス提供事業所、療育センター等を通じて対象者に配付、郵送回収
- ・調査票B（医療的ケア児の保護者）は、保育園、小・中・特別支援学校、障害福祉サービス提供事業所、病院・診療所（訪問看護ステーション含む）等を通じて対象者に配付、郵送回収
- ・調査票C～Gは郵送配付、郵送回収

## 5. 調査票配付・回収状況

調査対象者	配付数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
A 発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者	—	243	—	239	—
B 医療的ケア児の保護者	—	78	—	73	—
C 保育園	410	235	57.3	233	56.8
D 幼稚園・認定こども園	85	54	63.5	53	62.4
E 小・中・特別支援学校	176	115	65.3	115	65.3
F 障害福祉サービス提供事業所	266	140	52.6	138	51.9
G 病院・診療所 （訪問看護ステーション含む）	187	72	38.5	72	38.5
計	1,124	937	—	923	—

※有効回収数：回収数から、記入のない票（無効票）と集計後に届いた票を除いた数

## 6. 報告書の見方

- この報告書【概要版】には、「A：発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者」と「B：医療的ケア児の保護者」の調査のうち、主な結果を掲載している。
- 図表中の「n」は各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（%）の母数をあらわしている。
- 回答率は小数第二位を四捨五入して掲載しているため、合計が 100%にならないことがある。また、2つ以上回答することができる質問（複数回答）の場合、回答率の合計が 100%を超えることがある。
- クロス集計については、分析の柱となる項目に「無回答」があるため、合計しても「全体」の数値と一致しない場合がある。
- 母数となる「n」が少ない場合は、コメントを省略している場合がある。

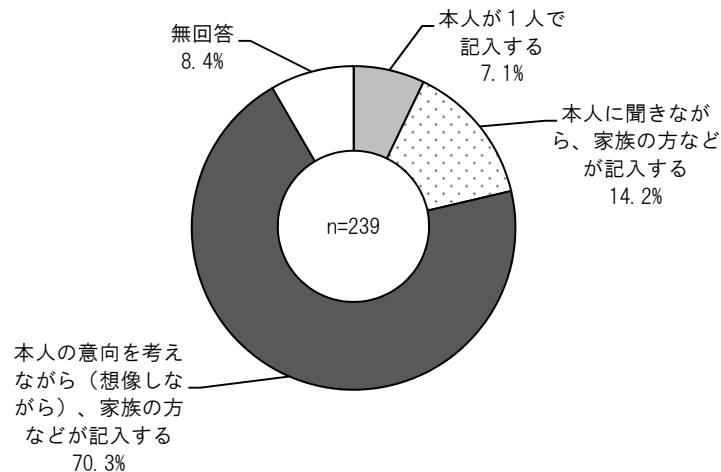
## Ⅱ 発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者調査結果

### 1. 記入者等

問 このアンケートはどなたが記入されますか。（1つに○）

- ☞ 記入者は、「本人の意向を考えながら（想像しながら）、家族の方などが記入する」が70.3%となっている（図表Ⅱ-1）。

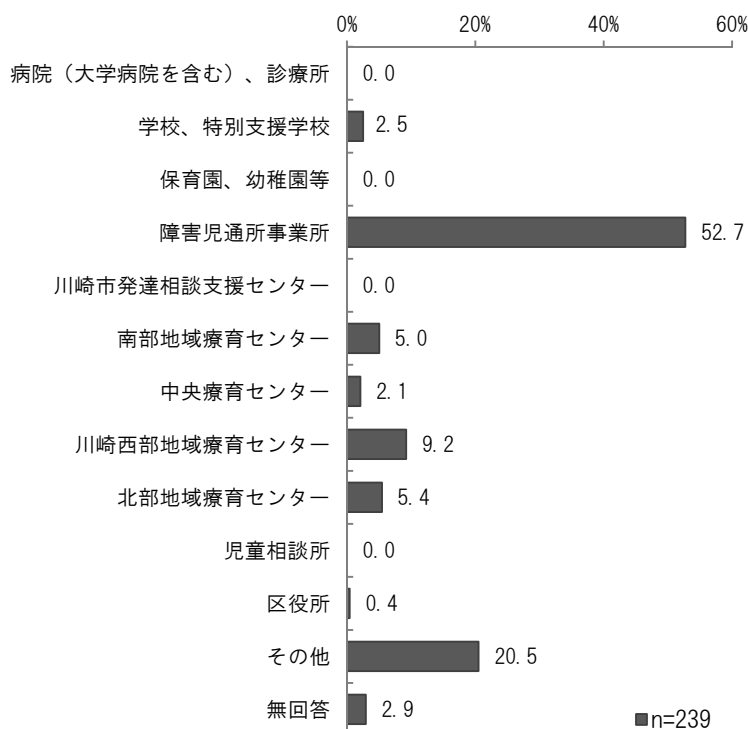
図表Ⅱ-1 記入者



問 アンケートはどこで受け取りましたか。受け取ったところすべてに○をつけてください。

- ☞ アンケートを受け取ったところは「障害児通所事業所」が52.7%と最も高く、療育センターや就労継続支援事業所等となっている（図表Ⅱ-2）。

図表Ⅱ-2 アンケートを受け取ったところ（複数回答）



#### 「その他」回答内容

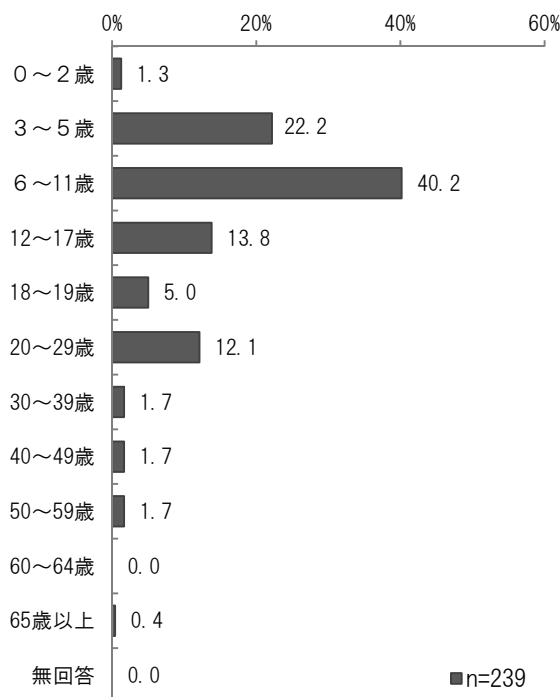
回答内容	件数
就労移行支援事業所	7
就労継続支援B型事業所	10
障害者通所施設	9
放課後等デイサービス	5
日中一時支援事業所	3
その他・回答なし	15

## 2. 対象者の属性

問 あなた（ご本人）の令和2年2月1日現在の年齢をご記入ください。

⇒ 年齢は「6～11歳」が40.2%であり、17歳以下を合わせると77.5%となっている（図表Ⅱ-3）。

図表Ⅱ-3 年齢（令和2年2月1日現在）



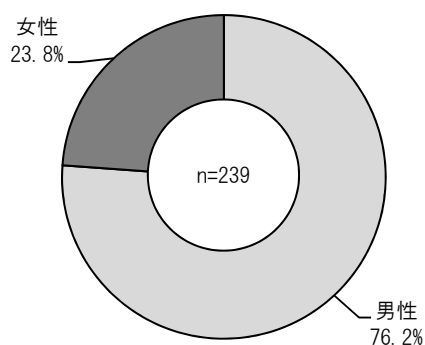
問 あなた（ご本人）の性別はどちらですか。

問 あなた（ご本人）の居住区はどちらですか。（1つに○）

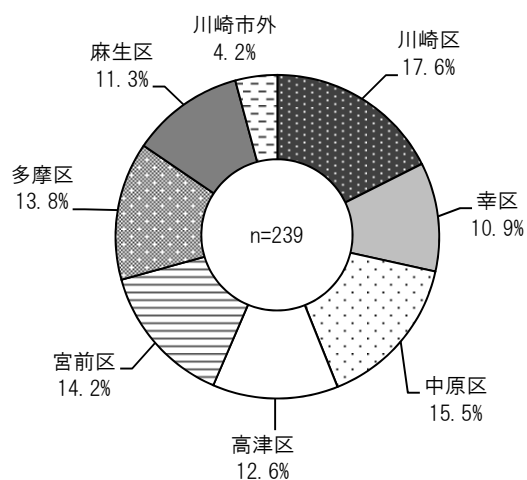
⇒ 性別は「男性」が76.2%となっている（図表Ⅱ-4）。

⇒ 居住区は「川崎区」が17.6%、「中原区」が15.5%となっている（図表Ⅱ-5）。

図表Ⅱ-4 性別



図表Ⅱ-5 居住区

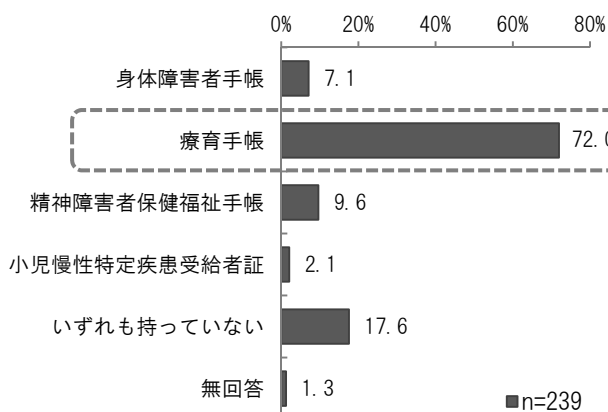




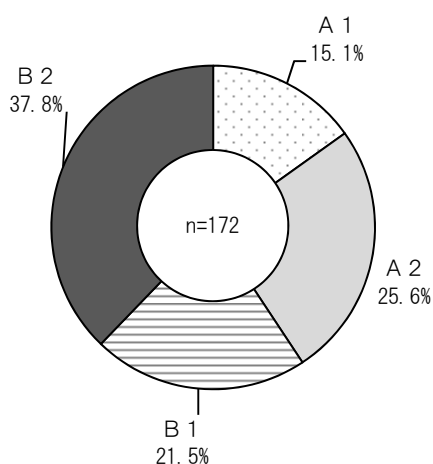
問 あなた（ご本人）が所持している障害者手帳等について、あてはまるものすべてに○をつけ、等級等にも○をつけてください。

- 72.0%が「療育手帳」を所持し、等級は「B2」が37.8%と最も高くなっている（図表Ⅱ-6、7）。
- 障害者手帳等は「いずれも持っていない」が17.6%となっている（図表Ⅱ-6）。

図表Ⅱ-6 所持している障害者手帳等（複数回答）



図表Ⅱ-7 療育手帳の等級



図表Ⅱ-8 身体障害者手帳の等級

等級	人数
1級	7
2級	4
3級	2
4級	1
5級	1
6級	1
無回答	1
計	17

図表Ⅱ-9 精神障害者保健福祉手帳の等級

等級	人数
1級	0
2級	12
3級	11
無回答	0
計	23

問 身体障害者手帳をお持ちの場合は、どのような障害ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、等級をご記入ください。

図表Ⅱ-10 身体障害者手帳の等級

単位：人

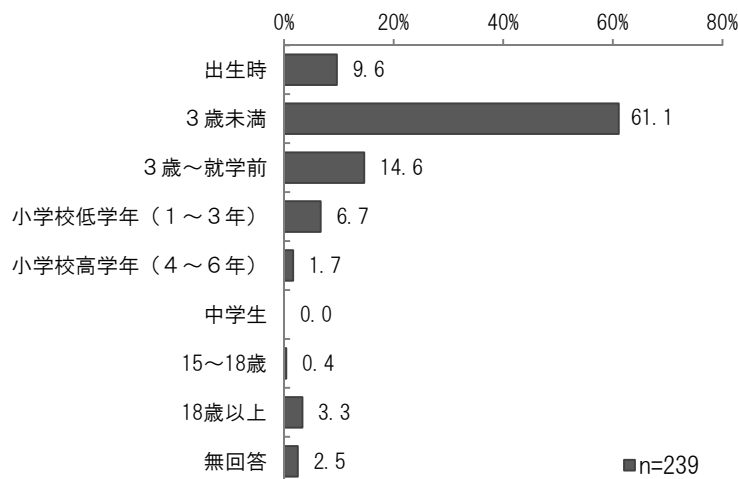
	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	無回答
視覚障害	1	-	-	-	-	-	1	/	-
聴覚・平衡機能障害	0	-	-	-	-	-	-	/	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能障害	1	-	-	-	-	/	/	/	1
肢体不自由	12	4	2	2	-	1	-	-	3
内部障害	2	1	-	-	1	/	/	/	-

### 3. 発達障害の診断、受診内容等について

問 ご家族が最初に行動や発達の違いについて気付いた、または家族以外から言われたのは、あなた（ご本人）が何歳の頃ですか。（1つに○）

- 最初に行動や発達の違いに気付いた時期は、本人が「3歳未満」の頃が61.1%となっている（図表Ⅱ-11）。

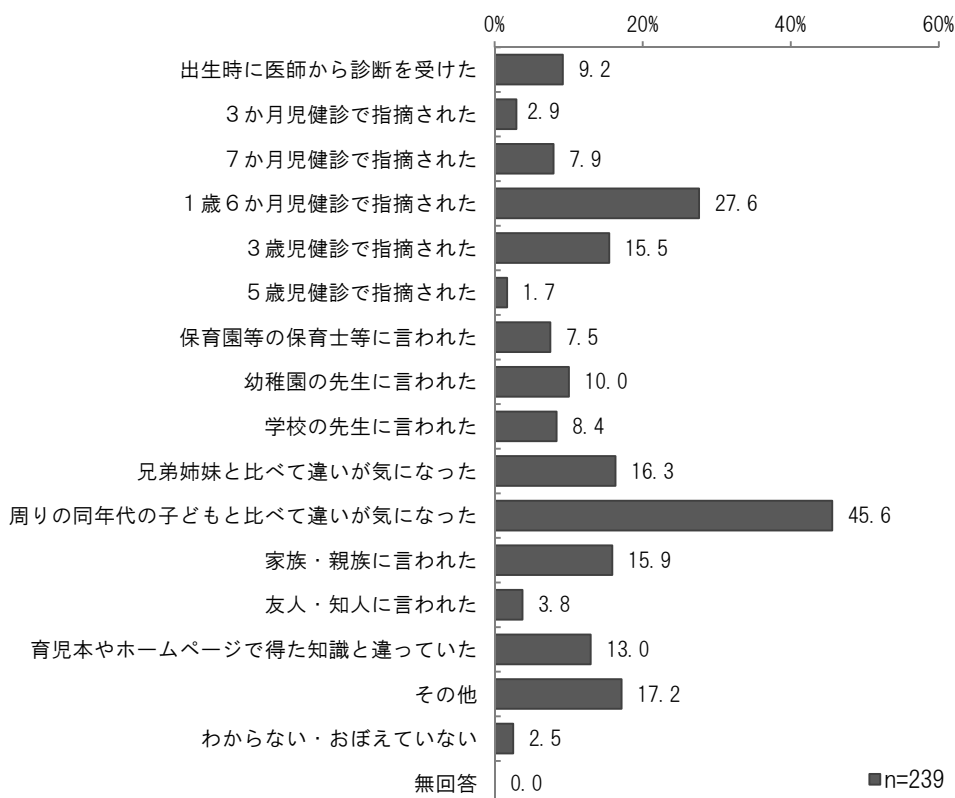
図表Ⅱ-11 最初に行動や発達の違いに気付いた時期



問 あなた（ご本人）の行動や発達の違いについて気付くきっかけはどのようなことでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 行動や発達の違いに気付いたきっかけは、「周りの同年代の子どもと比べて違いが気になった」が45.6%と最も高く、次いで「1歳6か月児健診で指摘された」が27.6%となっている（図表Ⅱ-12）。

図表Ⅱ-12 行動や発達の違いに気付いたきっかけ（複数回答）



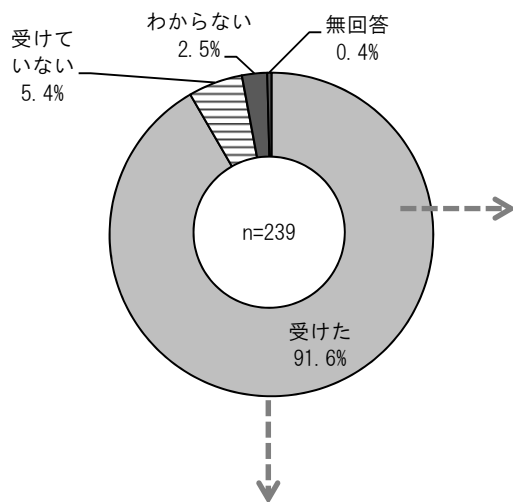
問 あなた（ご本人）は発達に関して、診断を受けたことがありますか。（1つに○）

【発達に関して診断を「受けた」方にうかがいます。】

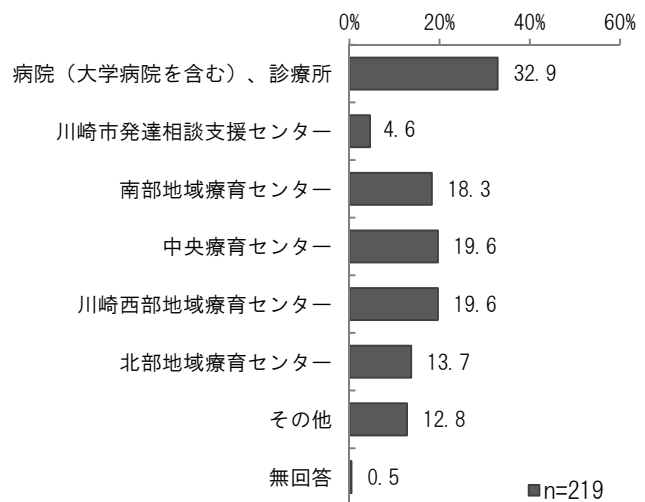
問 あなた（ご本人）は、どこで診断を受けましたか。また、どのような診断を受けましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 発達障害の診断を受けた人は 91.6%で、診断を受けた場所は「病院（大学病院を含む）、診療所」が 32.9%と最も高く、各療育センターが続いている（図表Ⅱ-13、14）。
- 診断を受けた人の 72.1%が「広汎性発達障害（自閉症スペクトラム障害）」であり、そのうち「知的障害を伴う自閉症」が 67.1%と最も多くなっている（図表Ⅱ-15、16）。

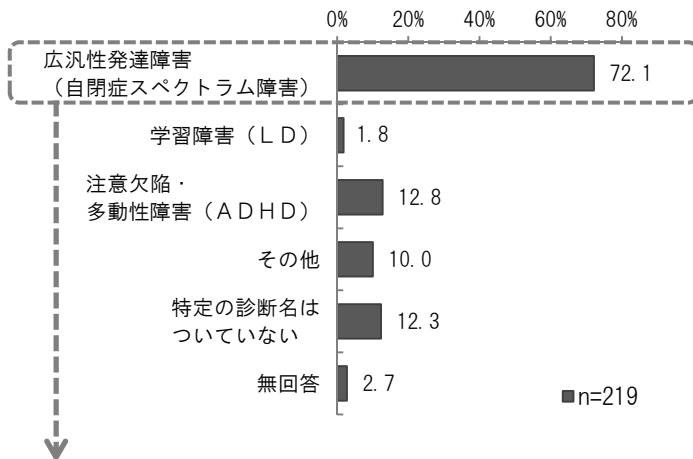
図表Ⅱ-13 発達障害の診断を受けたか



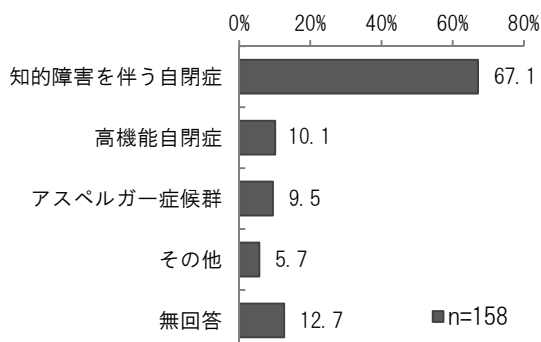
図表Ⅱ-14 診断を受けた場所（複数回答）



図表Ⅱ-15 診断名（複数回答）



図表Ⅱ-16 広汎性発達障害の種類（複数回答）

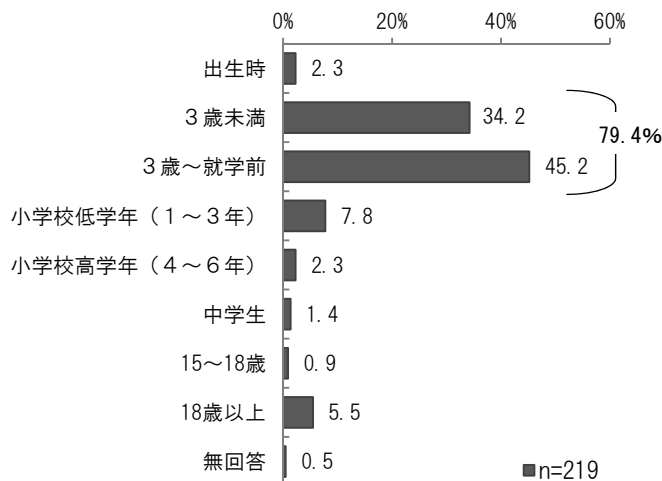


## Ⅱ 発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者調査結果

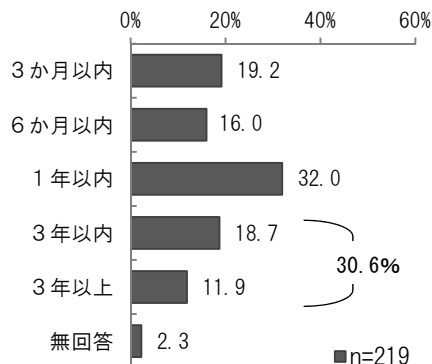
問 最初に診断を受けたのは、あなた（ご本人）が何歳の頃ですか。（1つに○）  
 問 あなた（ご本人）が行動や発達の違いに気づいてから診断を受けるまでどのくらいの期間がありましたか。（1つに○）

- ㊦ 診断を受けた人の79.4%が、就学前に最初に診断を受けており、発達等の違いに気づいてから診断を受けるまでの期間は6か月を超えて「1年以内」が32.0%と最も高い（図表Ⅱ-17、18）。
- ㊦ 一方、約3割は診断を受けるまでの期間が1年を超えている（図表Ⅱ-18）。

図表Ⅱ-17 最初に診断を受けた時期



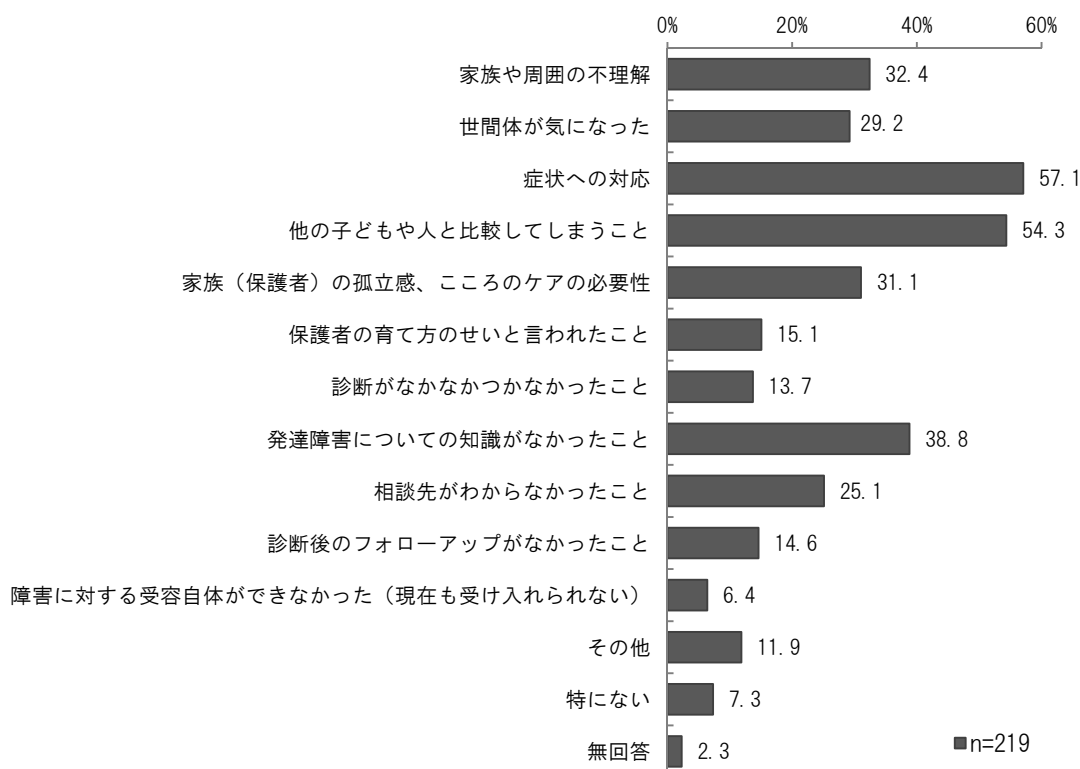
図表Ⅱ-18 気づきから診断を受けるまでの期間



問 障害について診断を受けて、障害を受け入れるまでの過程で一番苦しかったのはどのようなことでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ㊦ 診断を受けてから障害を受け入れるまでの過程で一番苦しかったことは、「症状への対応」が57.1%と最も高く、次いで「他の子どもや人と比較してしまうこと」が54.3%、「発達障害についての知識がなかったこと」が38.8%となっている（図表Ⅱ-19）。

図表Ⅱ-19 診断を受けてから障害を受け入れるまでの過程で苦しかったこと（複数回答）

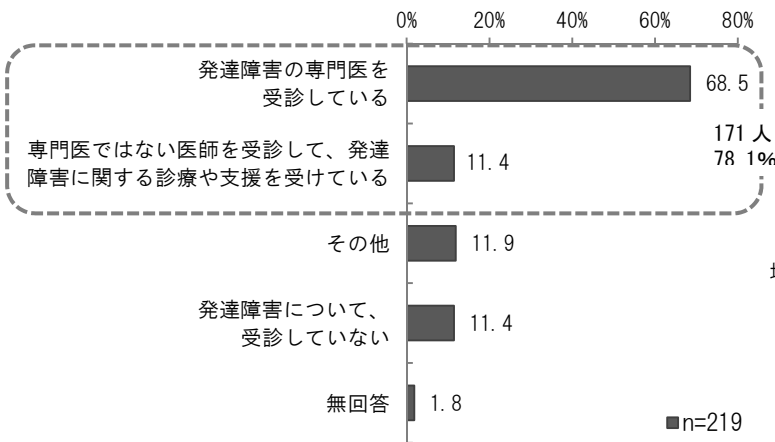


問 あなた（ご本人）は、診断を受けた後、引き続き医療機関で受診したり、発達支援の提供を受けたりしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

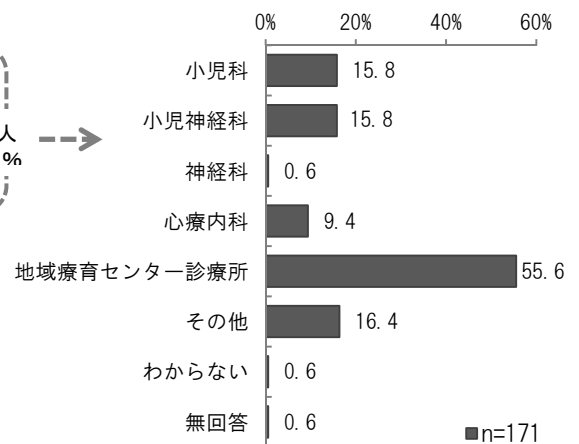
問 引き続き受診している医療機関の診療科は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ◎ 診断を受けた後、「発達障害の専門医を受診している」が 68.5%と最も高く、引き続き受診や支援を受けているのは 78.1%である。そのうち「地域療育センター診療所」を受診している人が 55.6%となっている（図表Ⅱ-20、21）。

図表Ⅱ-20 診断を受けた後の受診状況（複数回答）



図表Ⅱ-21 受診している診療科（複数回答）

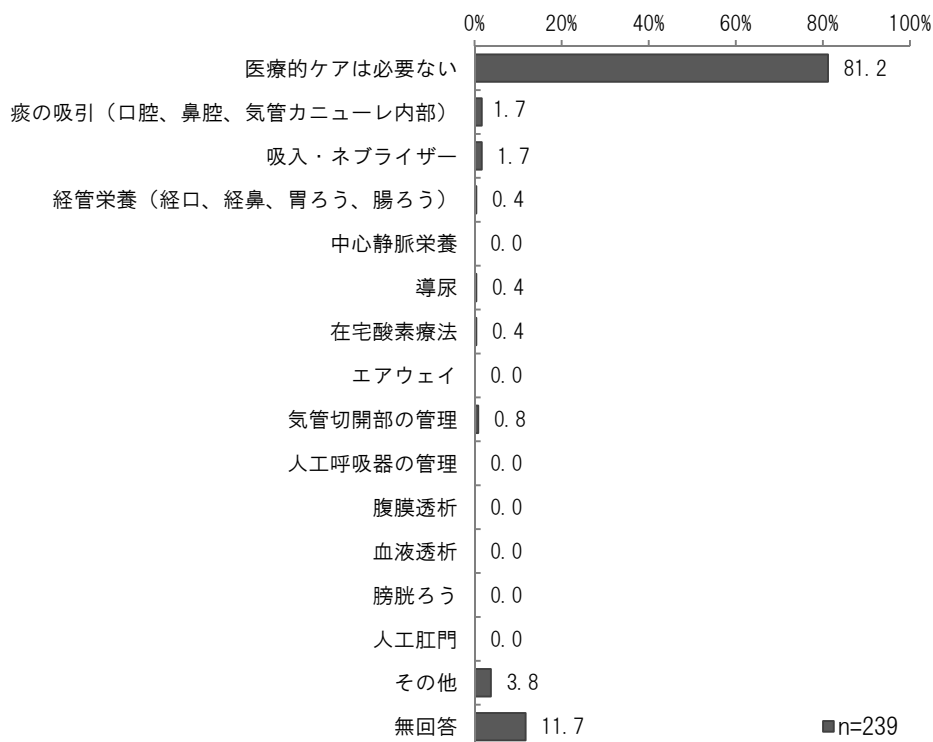


#### 4. 日中の生活について

問 あなた（ご本人）は、何らかの医療的ケアが必要です。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ◎ 「医療的ケアは必要ない」が 81.2%となっている（図表Ⅱ-22）。

図表Ⅱ-22 必要とする医療的ケア（複数回答）

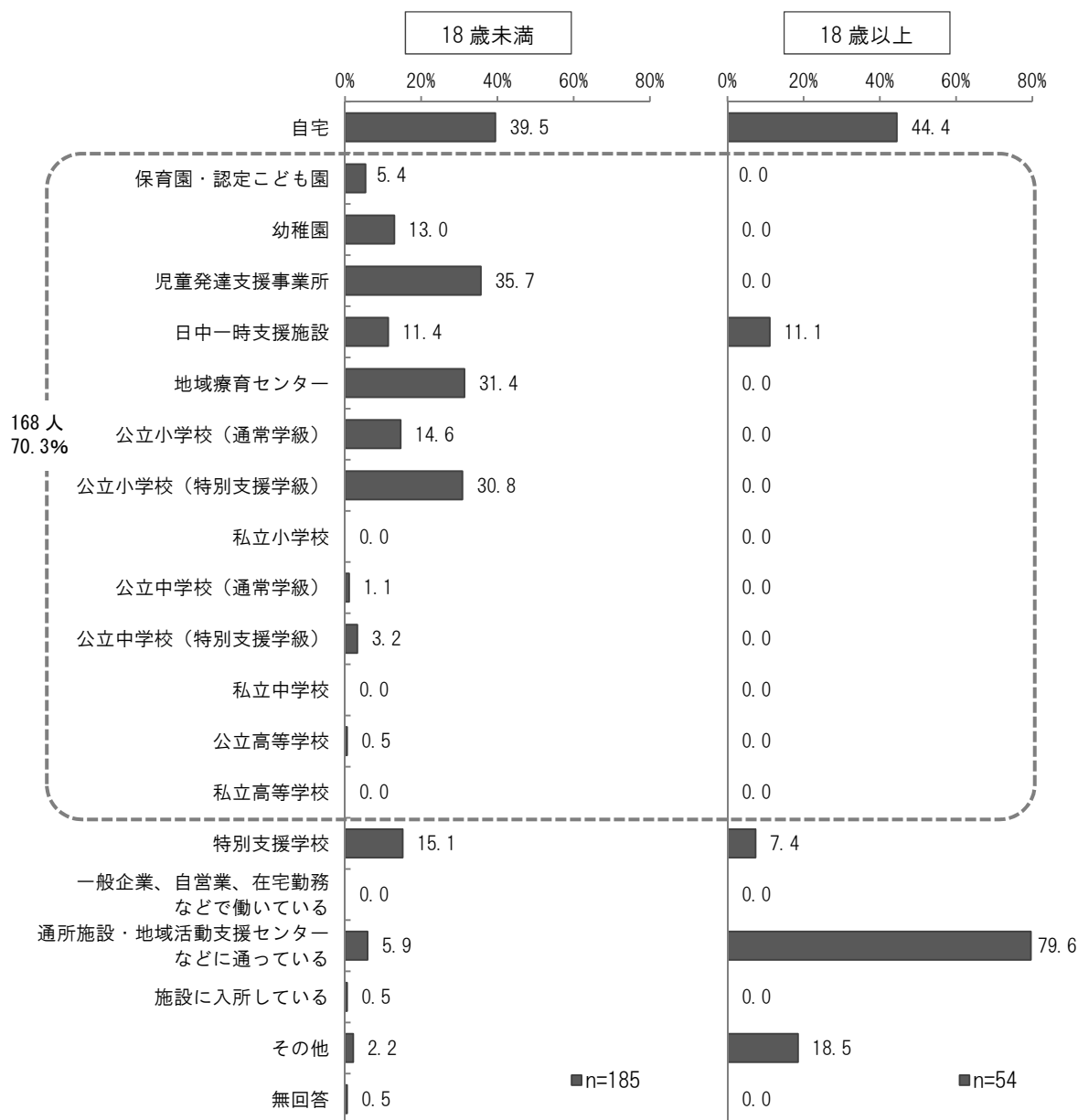


## Ⅱ 発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者調査結果

問 あなた（ご本人）が日中過ごしている場所について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 日中過ごしている場所は、18歳未満では「自宅」が39.5%と最も高く、次いで「児童発達支援事業所」が35.7%、「地域療育センター」が31.4%、「公立小学校（特別支援学級）」が30.8%となっている（図表Ⅱ-23）。
- ② 18歳以上では、「通所施設・地域活動支援センターなどに通っている」が79.6%と最も高くなっている（図表Ⅱ-23）。

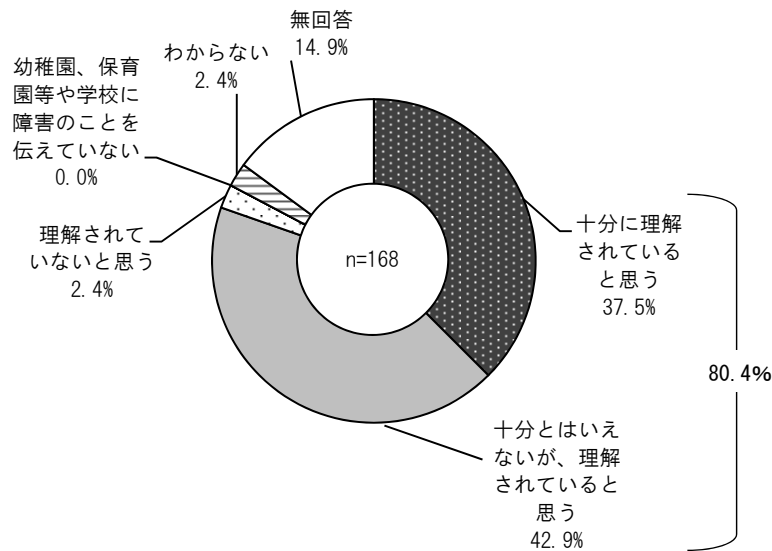
図表Ⅱ-23 日中過ごしている場所（複数回答）



【幼稚園、保育園等や学校に通っている方にうかがいます。】  
 問 あなた（ご本人）が通っている幼稚園、保育園等や学校では、障害について理解されていると思いますか。（1つに○）

- 幼稚園、保育園等や学校に通っている人のうち、障害について「十分に理解されていると思う」（37.5%）と「十分とはいえないが、理解されていると思う」（42.9%）を合わせると 80.4% となっている（図表Ⅱ-24）。

図表Ⅱ-24 幼稚園、保育園等や学校における障害についての理解

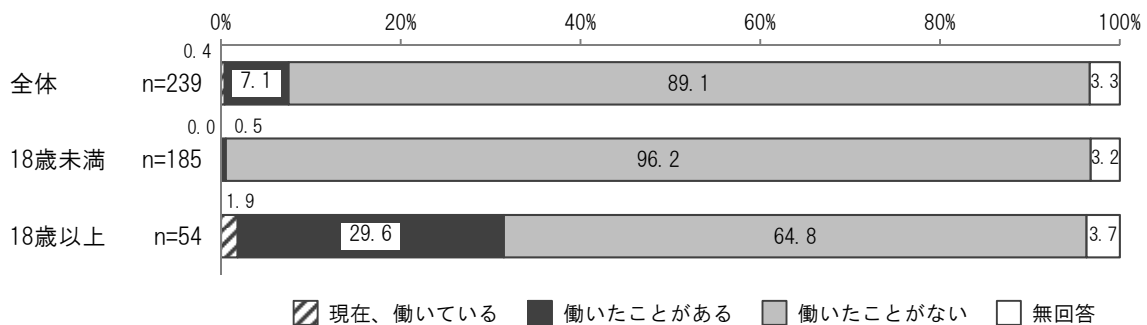


## 5. 就労について

問 あなた（ご本人）は、一般企業、自営業、在宅勤務などで働いた経験はありますか。就労継続支援A型での経験は除きます。（1つに○）

- 18歳以上では「現在、働いている」が1.9%（1人）、「働いたことがある」が29.6%（16人）となっている（図表Ⅱ-25）。

図表Ⅱ-25 就労経験（就労継続支援A型を除く）

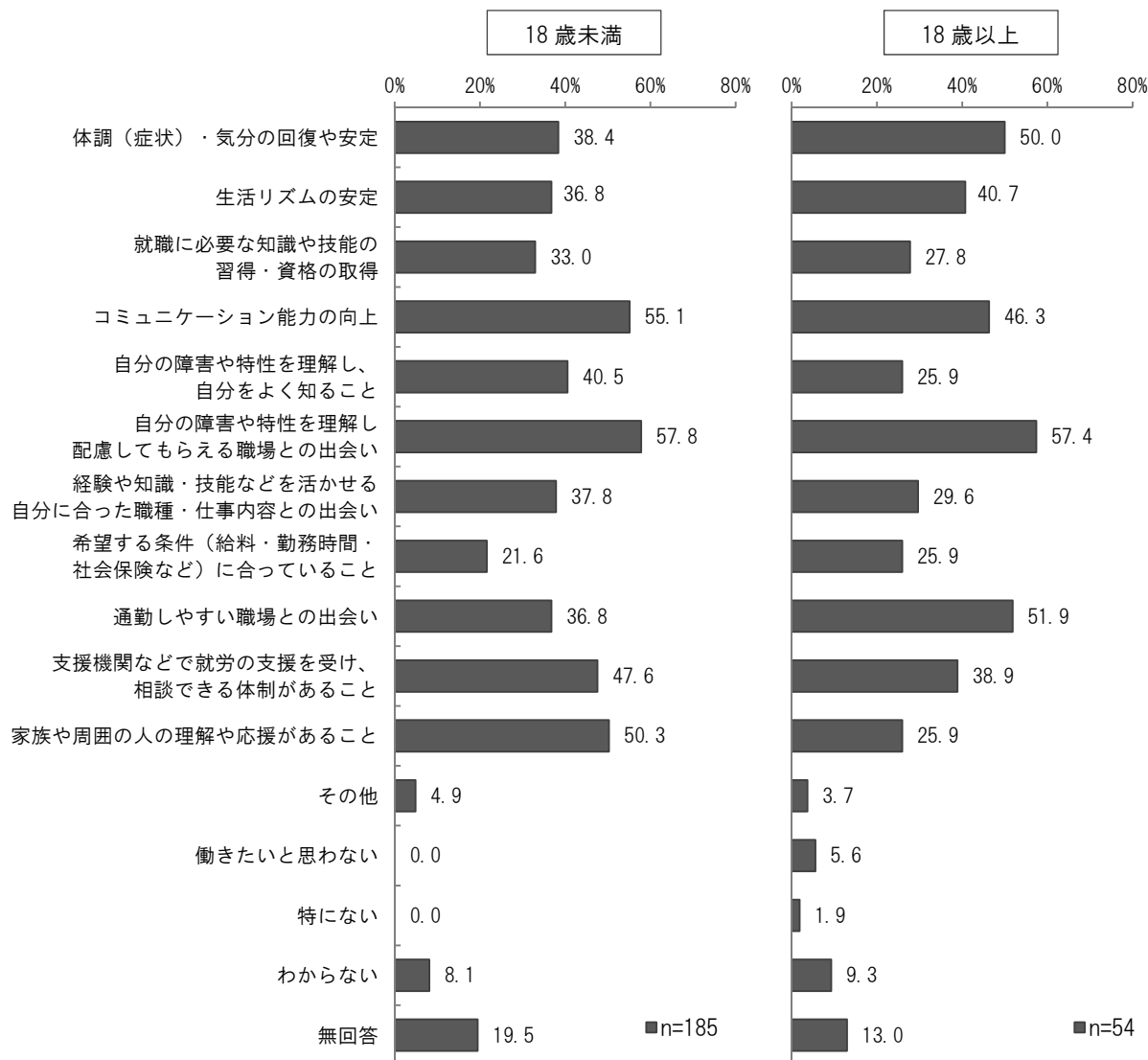


## Ⅱ 発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者調査結果

問 あなた（ご本人）が、一般就労につながったと思うこと、または一般就労するのに必要だと思うことはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 一般就労につながること、必要だと思うことは、年齢に関わらず「自分の障害や特性を理解し配慮してもらえる職場との出会い」が最も高い（図表Ⅱ-26）。
- 18歳未満では、次いで「コミュニケーション能力の向上」が55.1%、「家族や周囲の人の理解や応援があること」が50.3%となっている（図表Ⅱ-26）。
- 18歳以上では、次いで「通勤しやすい職場との出会い」が51.9%、「体調（症状）・気分の回復や安定」が50.0%となっている（図表Ⅱ-26）。

図表Ⅱ-26 一般就労につながったと思うこと、必要だと思うこと（複数回答）

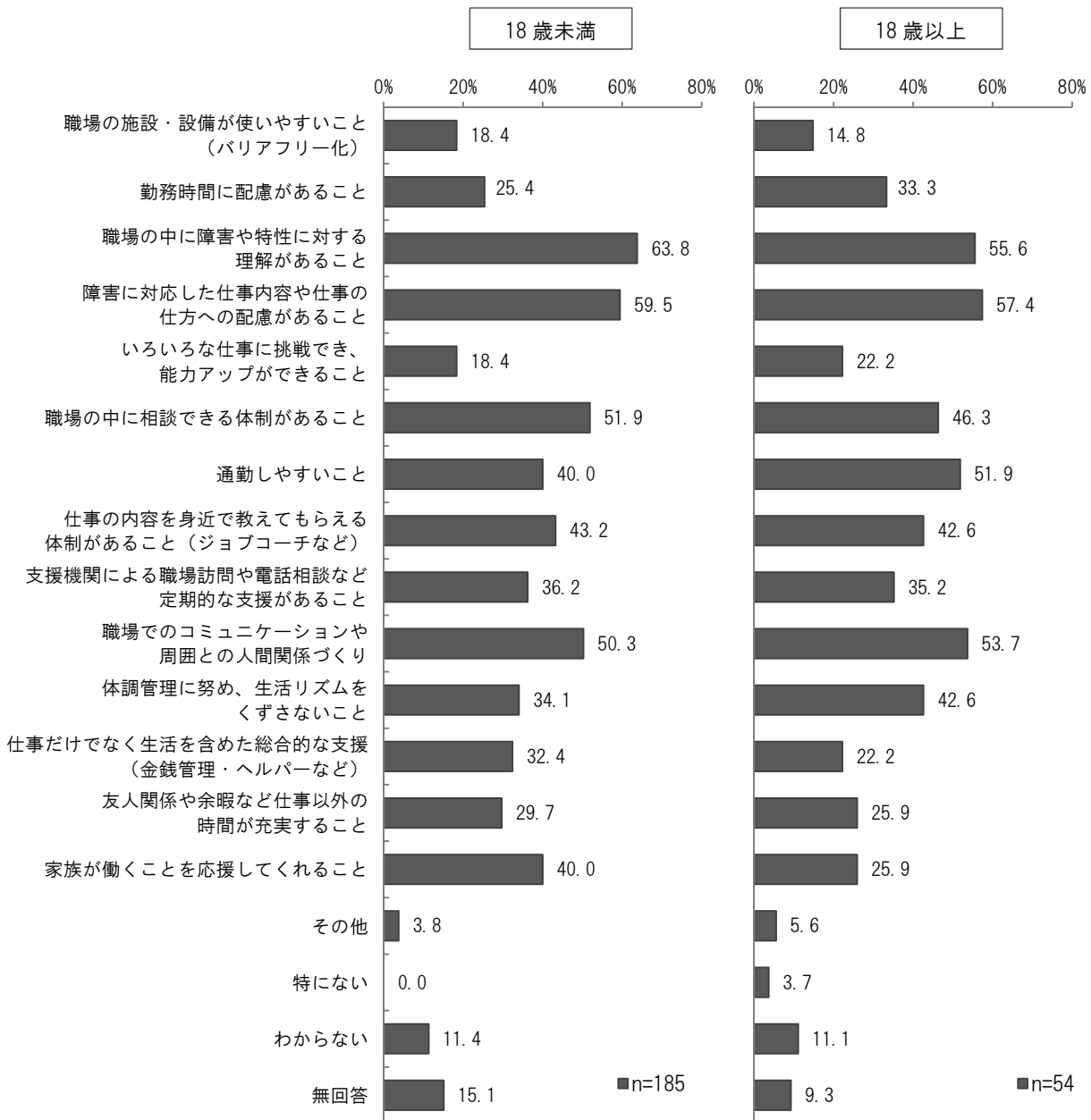




問 あなた（ご本人）が、一般企業などで働き続けるために必要だと思うことはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 一般企業などで働き続けるために必要だと思うことは、年齢に関わらず「職場の中に障害や特性に対する理解があること」「障害に対応した仕事内容や仕事の仕方への配慮があること」が上位となっている（図表Ⅱ-27）。
- 18歳未満では、次いで「職場の中に相談できる体制があること」が51.9%、「職場でのコミュニケーションや周囲との人間関係づくり」が50.3%となっている（図表Ⅱ-27）。
- 18歳以上では、次いで「職場でのコミュニケーションや周囲との人間関係づくり」が53.7%、「通勤しやすいこと」が51.9%となっている（図表Ⅱ-27）。

図表Ⅱ-27 一般企業などで働き続けるために必要だと思うこと（複数回答）



## 6. 家族や介護の状況について

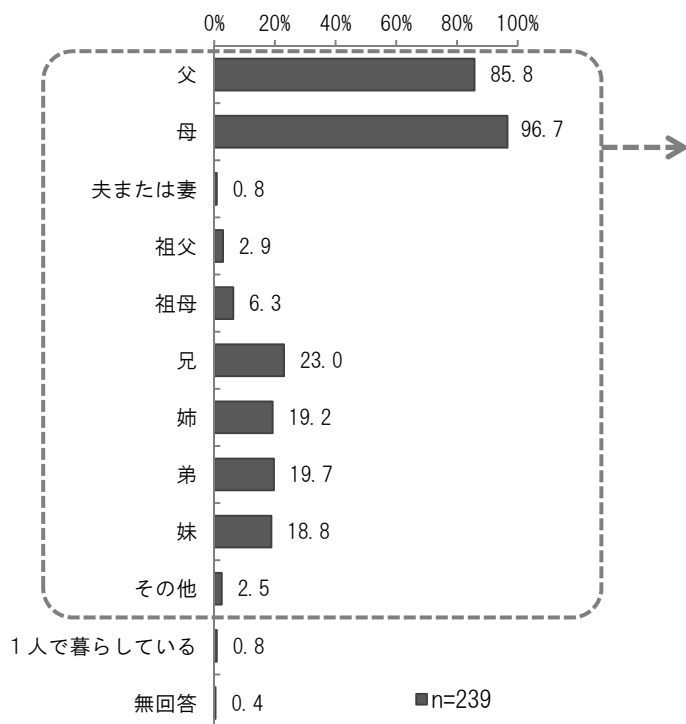
問 あなた（ご本人）と同居するご家族はどなたですか。同居の方すべてに○をつけ、2人以上いる場合は人数を記入してください。  
（あなた（ご本人）からみた続柄でお答えください。）

【一人暮らし以外の方にうかがいます。】

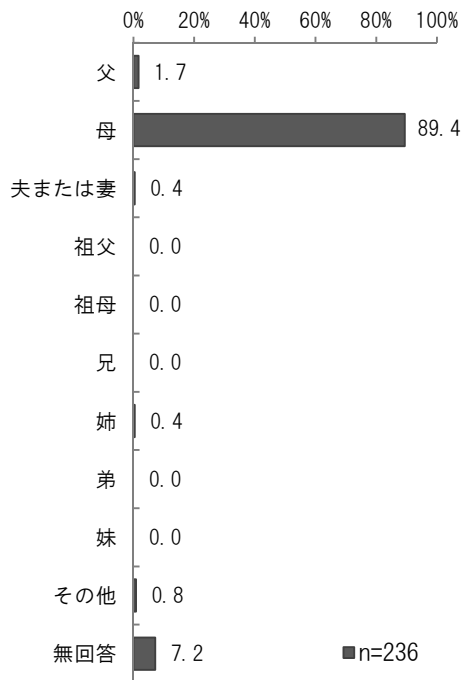
問 前問の方のうち、主にあなた（ご本人）の世話をされるのはどなたですか。主な方に○をつけてください。（1つに○）

⇒ 同居家族は「母」96.7%、「父」85.8%であり（図表Ⅱ-28）、そのうち主に世話をする人は「母」が89.4%となっている（図表Ⅱ-29）。

図表Ⅱ-28 同居する家族（複数回答）



図表Ⅱ-29 主に世話をする人

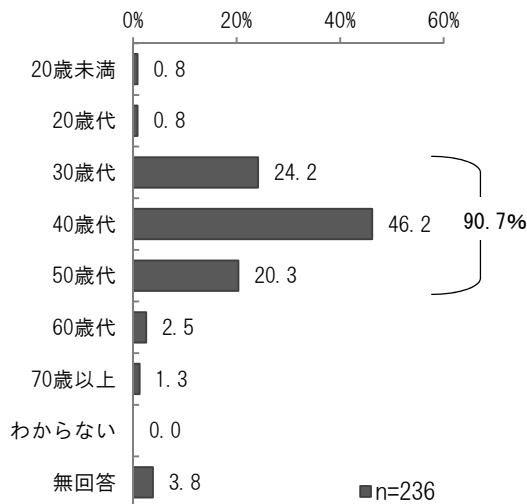


問 主にあなた（ご本人）の世話をされる方の年代について、あてはまるものに○をつけてください。（1つに○）

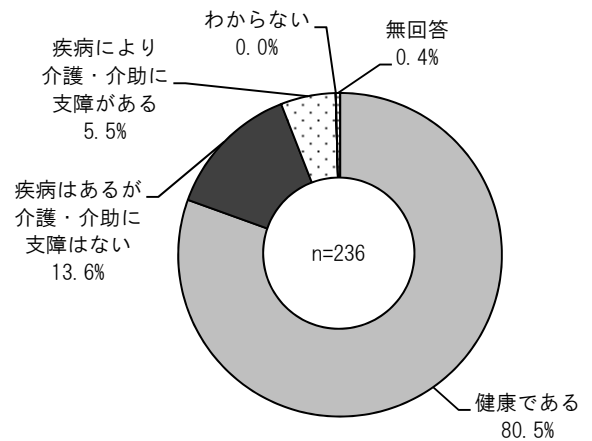
問 主にあなた（ご本人）の世話をされる方の健康状態について、あてはまるものに○をつけてください。（1つに○）

- ② 主に世話をする人の年齢は「40歳代」が46.2%と最も高く、「30歳代」から「50歳代」で約9割を占めている（図表Ⅱ-30）。
- ② 主に世話をする人の健康状態は「健康である」が80.5%であり、疾病のある人が約2割となっている（図表Ⅱ-31）。

図表Ⅱ-30 主に世話をする人の年齢



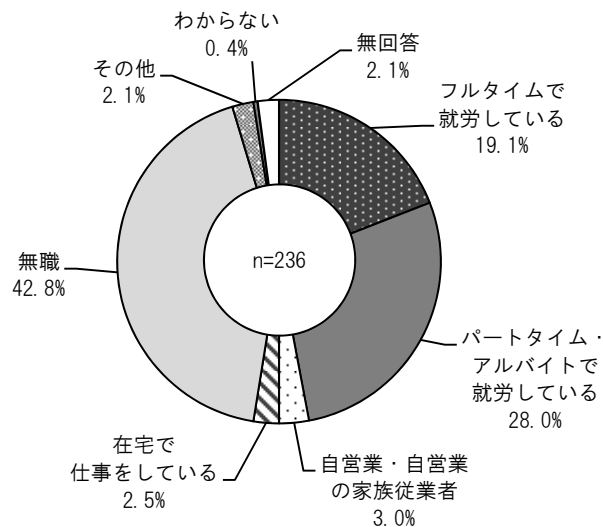
図表Ⅱ-31 主に世話をする人の健康状態



問 主にあなた（ご本人）の世話をされる方は就労していますか。あてはまるものに○をつけてください。（1つに○）

- ② 主に世話をする人の就労状況は、「無職」が42.8%となっており、何らかの仕事をしている人が5割を超えている（図表Ⅱ-32）。

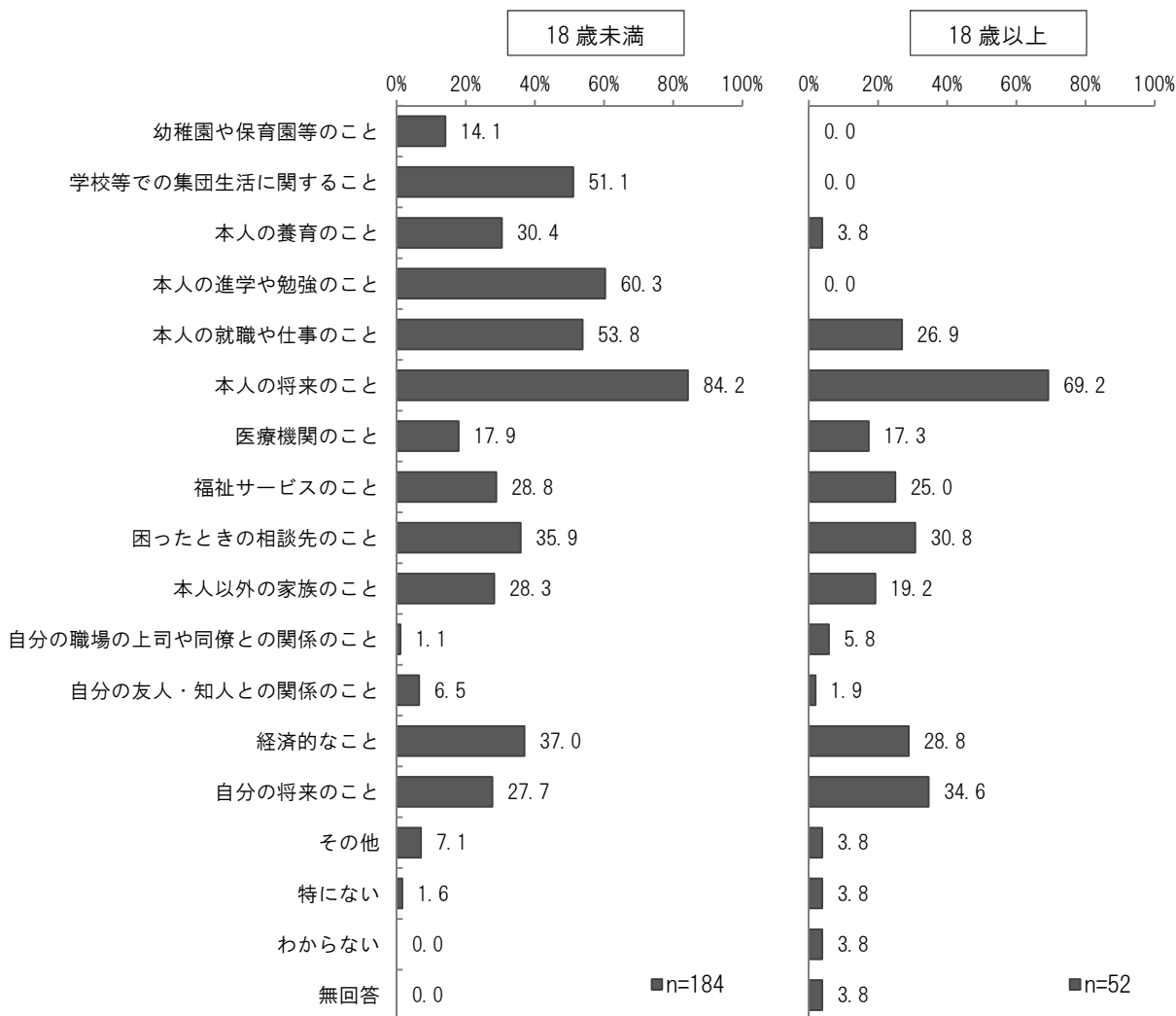
図表Ⅱ-32 主に世話をする人の就労状況



問 現在、主にあなた（ご本人）の世話をされる方が不安なこと、困っていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ㊦ 主に世話をする人が不安なこと、困っていることは、年齢に関わらず「本人の将来のこと」が最も高く、18歳未満では、次いで「本人の進学や勉強のこと」が60.3%、「本人の就職や仕事のこと」が53.8%、「学校等での集団生活に関すること」が51.1%となっている（図表Ⅱ-33）。

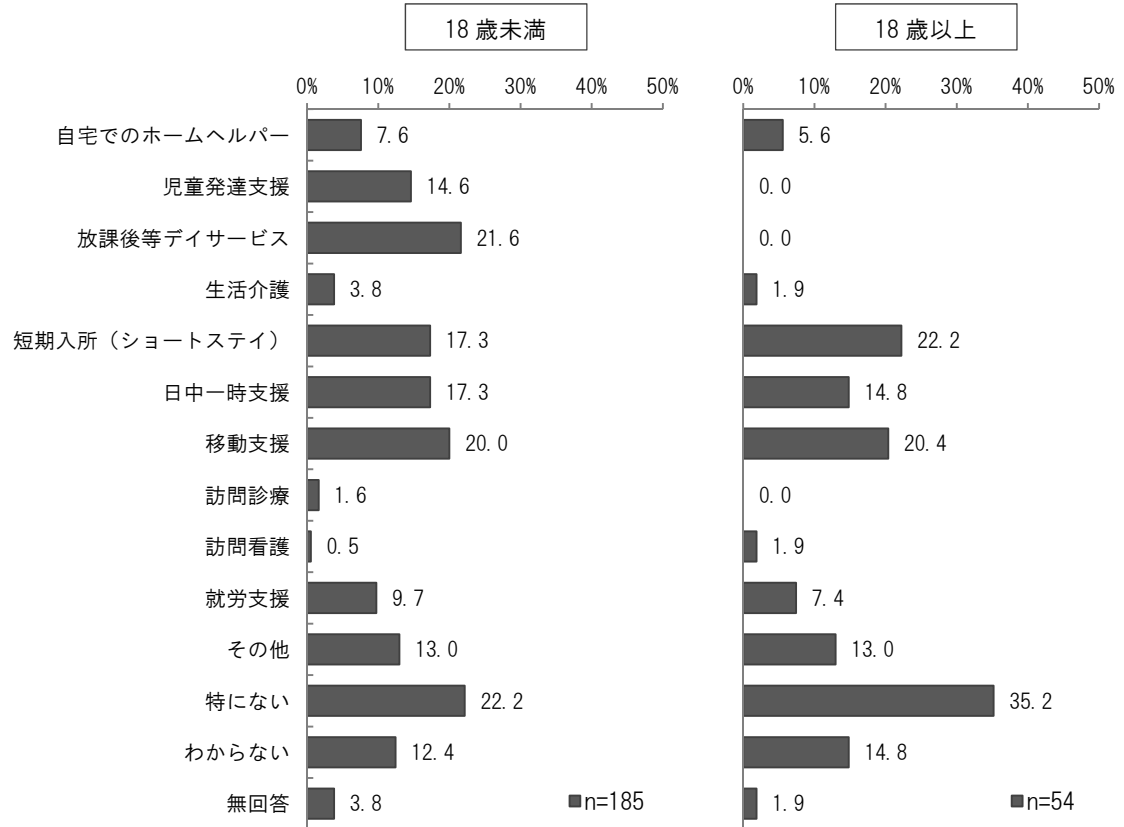
図表Ⅱ-33 主に世話をする人が不安なこと、困っていること（複数回答）



問 あなた（ご本人）の生活について、不足していると感じるサービスはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ㊦ 本人の生活について不足していると感じるサービスは、18歳未満では、「放課後等デイサービス」が21.6%、「移動支援」が20.0%となっている（図表Ⅱ-34）。
- ㊦ 18歳以上では、「短期入所（ショートステイ）」が22.2%、「移動支援」が20.4%となっている。また、「特にない」が35.2%である（図表Ⅱ-34）。

図表Ⅱ-34 本人の生活について不足していると感じるサービス（複数回答）

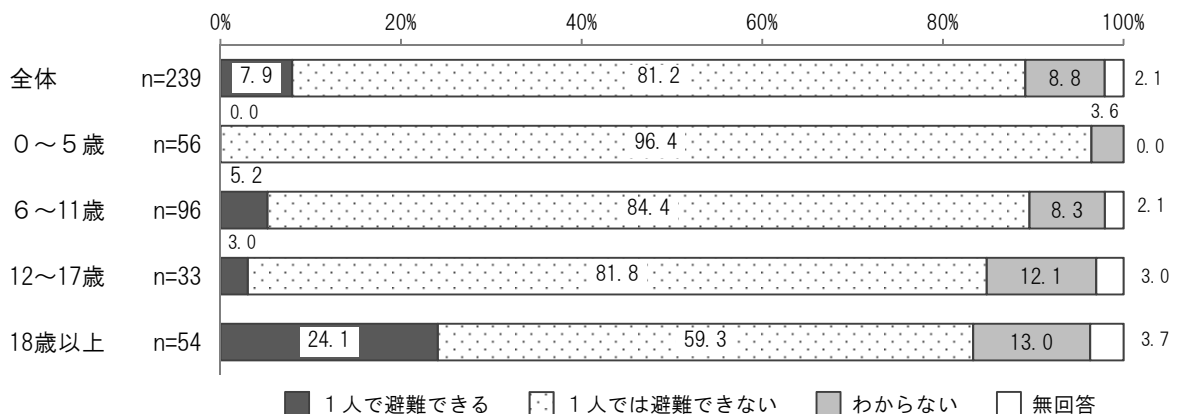


## 7. 災害対策について

問 あなた（ご本人）は、豪雨や地震などの災害時に1人で避難できますか。（1つに○）

- ㊦ 災害時の避難については、18歳以上でも「1人で避難できる」が24.1%であり、約6割は「1人では避難できない」となっている（図表Ⅱ-35）。

図表Ⅱ-35 豪雨や地震などの災害時に1人で避難できるか

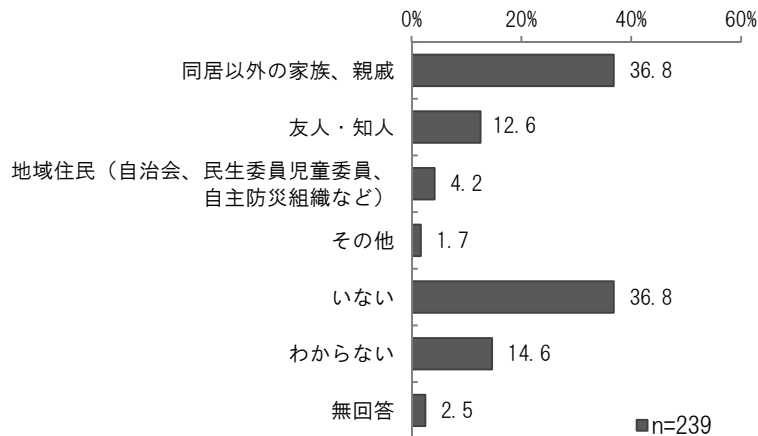


## Ⅱ 発達障害児（者）及び発達障害の疑いのある子どもの保護者調査結果

問 災害時に、同居家族以外で手助けに来てくれる方はいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ☞ 災害時に同居家族以外で手助けに来てくれる人は、「同居以外の家族、親戚」が 36.8%となっている。一方、「いない」が 36.8%、「わからない」が 14.6%となっている（図表Ⅱ-36）。

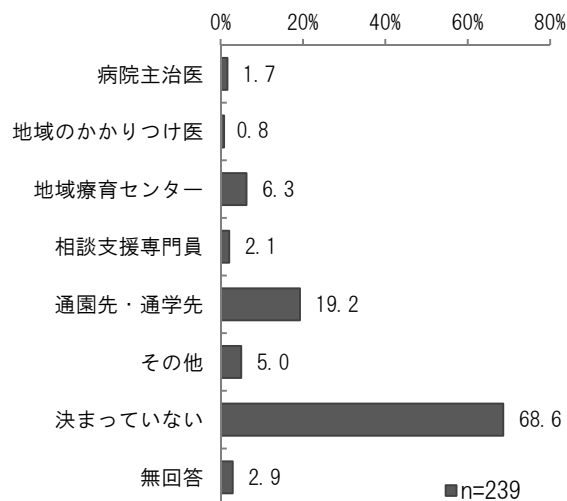
図表Ⅱ-36 災害時に同居家族以外で手助けに来てくれる人（複数回答）



問 災害時の関係機関の連絡体制について、家族や近所の方などの身近な方以外で緊急連絡先は決まっていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ☞ 災害時の身近な人以外の緊急連絡先は、「決まっていない」が 68.6%となっている（図表Ⅱ-37）。

図表Ⅱ-37 災害時の身近な人以外の緊急連絡先（複数回答）

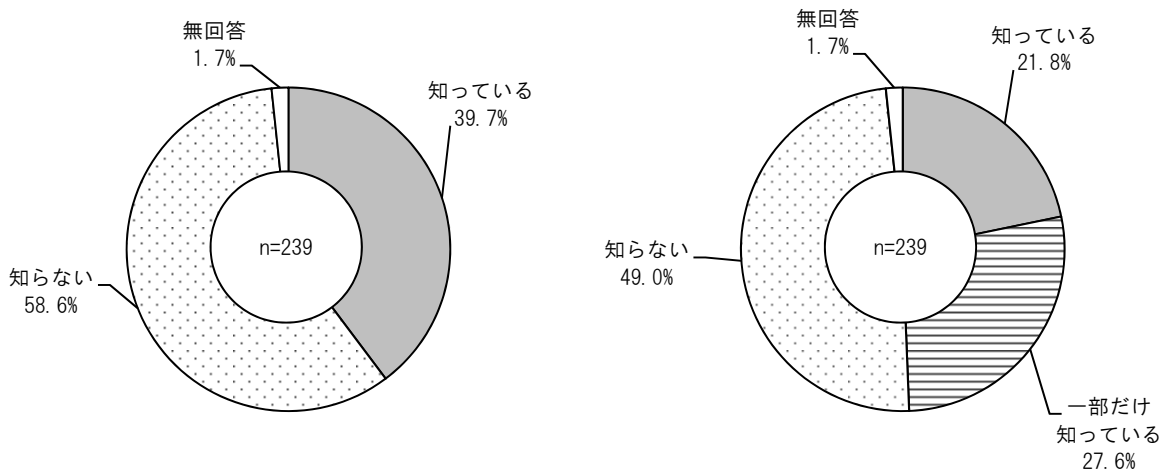


問 豪雨や地震など災害の種類ごとの避難場所が川崎市地域防災計画で定められていることを知っていますか。（1つに○）

問 川崎市地域防災計画に定められている災害種類ごとに、どこに避難したらいいか知っていますか。（1つに○）

- ◎ 豪雨や地震など災害の種類ごとの避難場所が川崎市地域防災計画で定められていることについて、「知っている」が39.7%となっている（図表Ⅱ-38）。
- ◎ 川崎市地域防災計画に定められている災害種類ごとの避難場所について、「知っている」が21.8%、「一部だけ知っている」が27.6%となっている（図表Ⅱ-39）。

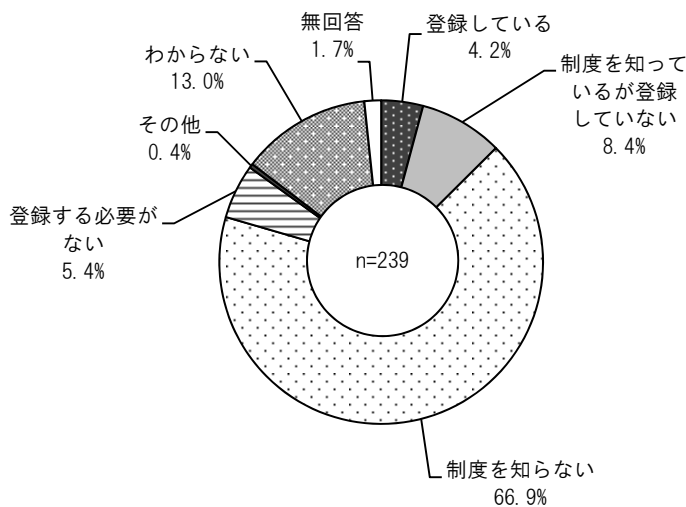
図表Ⅱ-38 災害ごとの避難場所が川崎市地域防災計画 図表Ⅱ-39 災害ごとの避難場所を知っているかに定められていることを知っているか



問 川崎市の災害時要援護者避難支援制度に登録していますか。（1つに○）

- ◎ 川崎市災害時要援護者避難支援制度への登録状況は、「登録している」が4.2%であり、「制度を知らない」が66.9%となっている（図表Ⅱ-40）。

図表Ⅱ-40 川崎市災害時要援護者避難支援制度への登録状況



## Ⅲ 医療的ケア児の保護者調査結果

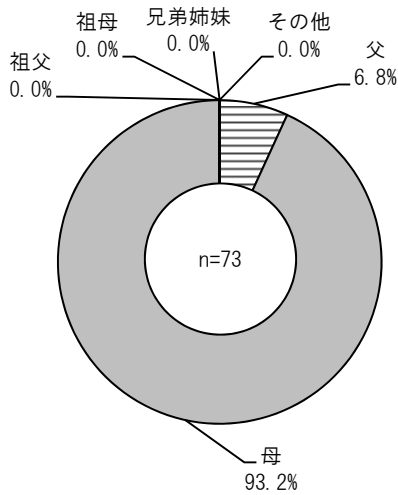
### 1. 記入者等

このアンケートにご記入いただく方は、医療的ケアを必要とするお子さまからみてどなたにあたりますか。（1つに○）

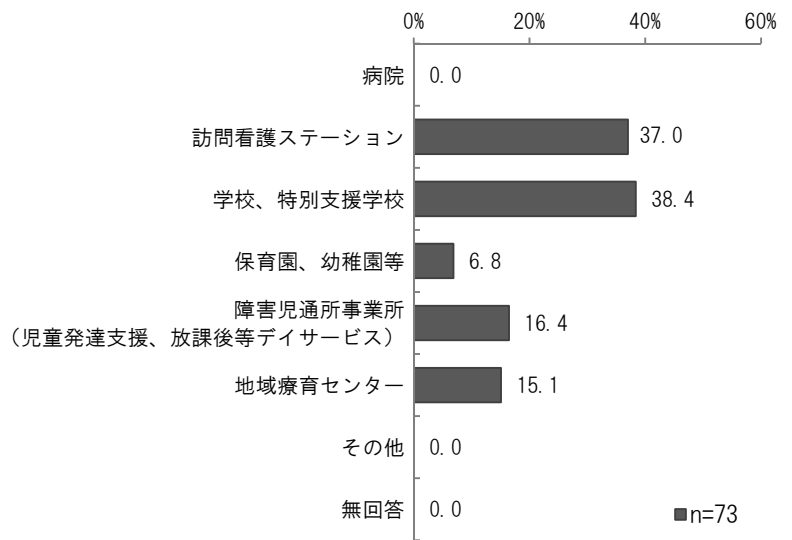
このアンケートはどこで受け取りましたか。受け取ったところすべてに○をつけてください。

- 記入者は、「母」が93.2%となっている（図表Ⅲ-1）。
- アンケートを受け取ったところは「学校、特別支援学校」が38.4%、「訪問看護ステーション」が37.0%となっている（図表Ⅲ-2）。

図表Ⅲ-1 記入者



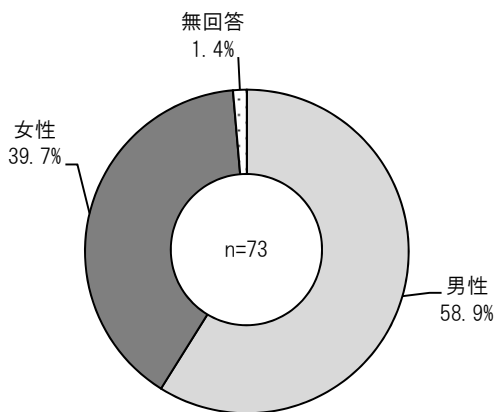
図表Ⅲ-2 アンケートを受け取ったところ（複数回答）



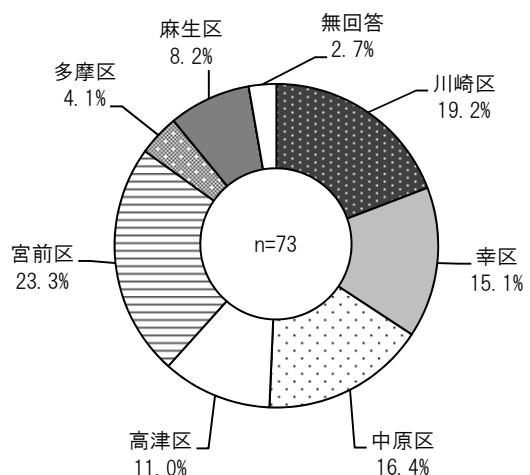
### 2. 医療的ケアを必要とする子どもの属性

- 性別は「男性」が58.9%となっている（図表Ⅲ-3）。
- 居住区は「宮前区」が23.3%、「川崎区」が19.2%となっている（図表Ⅲ-4）。

図表Ⅲ-3 性別



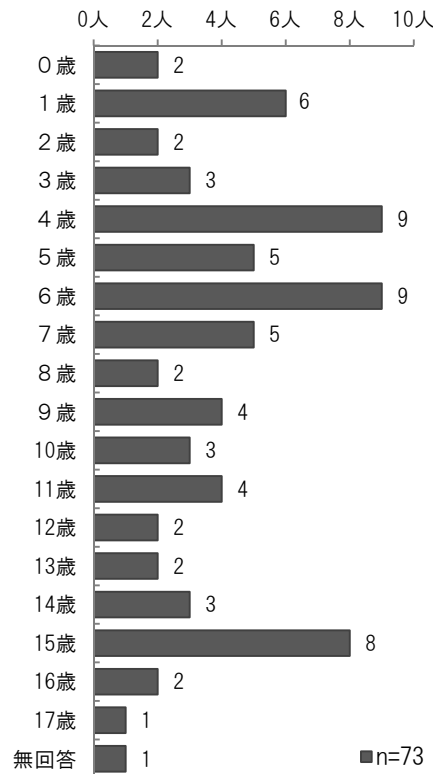
図表Ⅲ-4 居住区





㊦ 年齢は「4歳」「6歳」がともに9人で、「15歳」が8人となっている（図表Ⅲ-5）。

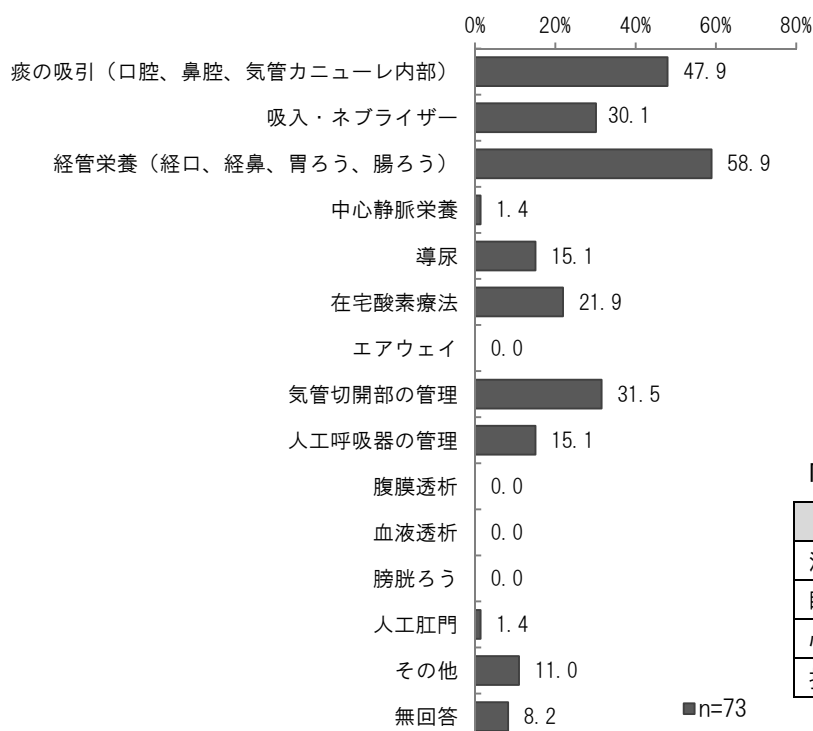
図表Ⅲ-5 年齢（生年月日から令和2年2月1日現在の年齢を算出）



問 現在、日常的に行っている医療的ケアについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

㊦ 日常的に行っている医療的ケアは「経管栄養」が58.9%と最も高く、次いで「痰の吸引」が47.9%、「気管切開部の管理」が31.5%となっている（図表Ⅲ-6）。

図表Ⅲ-6 日常的に行っている医療的ケア（複数回答）



「その他」回答内容

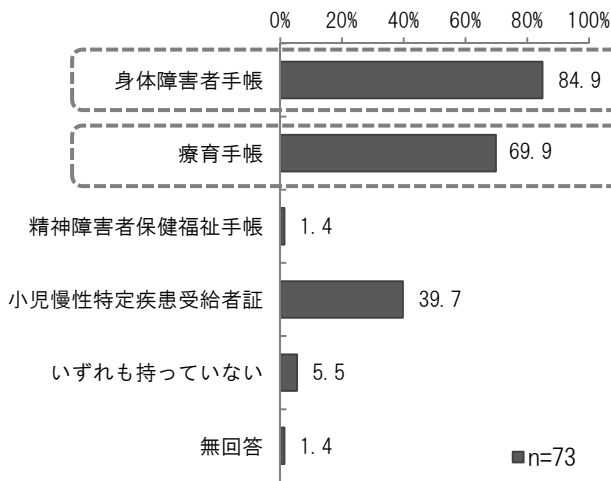
	件数
浣腸	3
眼の保護・ケア	1
心臓病 人工内耳装用	1
投薬	1

Ⅲ 医療的ケア児の保護者調査結果

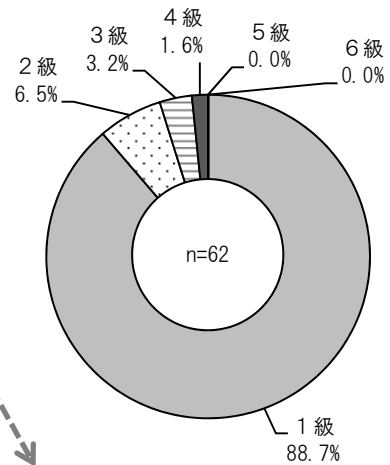
問 お子さまが所持している障害者手帳等について、あてはまるものすべてに○をつけ、等級等にも○をつけてください。

- 所持している障害者手帳等は、「身体障害者手帳」が84.9%であり、そのうち「1級」が88.7%となっている（図表Ⅲ-7、8）。
- 「療育手帳」の所持が69.9%であり、そのうち「A1」が82.4%である（図表Ⅲ-7、9）。
- また、「身体障害者手帳」と「療育手帳」両方の所持が27人（37.0%）、「身体障害者手帳」と「療育手帳」に加え「小児慢性特定疾患受給者証」の所持が20人（27.4%）となっている（図表Ⅲ-10）。

図表Ⅲ-7 所持している障害者手帳等（複数回答）



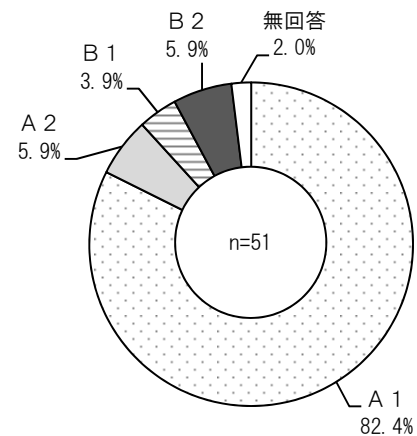
図表Ⅲ-8 身体障害者手帳の等級



図表Ⅲ-10 所持している障害者手帳等の内訳

所持している障害者手帳等の内訳	件数
身体障害者手帳のみ	9
療育手帳のみ	3
身体障害者手帳・療育手帳	27
身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・小児慢性特定疾患受給者証	1
身体障害者手帳・療育手帳・小児慢性特定疾患受給者証	20
身体障害者手帳・小児慢性特定疾患受給者証	5
小児慢性特定疾患受給者証	3
いずれも持っていない	4
無回答	1
計	73

図表Ⅲ-9 療育手帳の等級



問 身体障害者手帳をお持ちの場合は、どのような障害ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、等級をご記入ください。

図表Ⅲ-11 身体障害者手帳の等級

単位：人

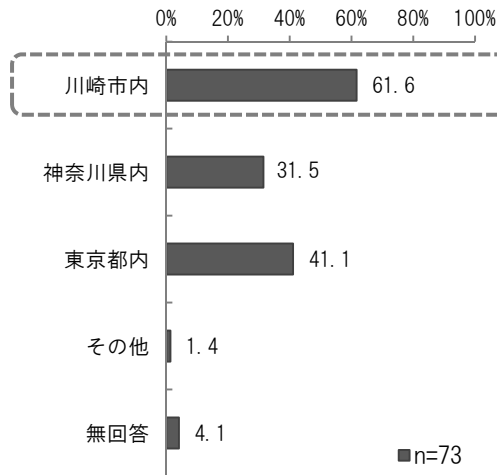
	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	無回答
視覚障害	1	1	-	-	-	-	-	-	-
聴覚・平衡機能障害	6	-	3	-	-	-	3	-	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能障害	0	-	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由	55	46	6	1	-	-	-	-	2
内部障害	13	6	-	4	1	-	-	-	2

### 3. 日中の生活について

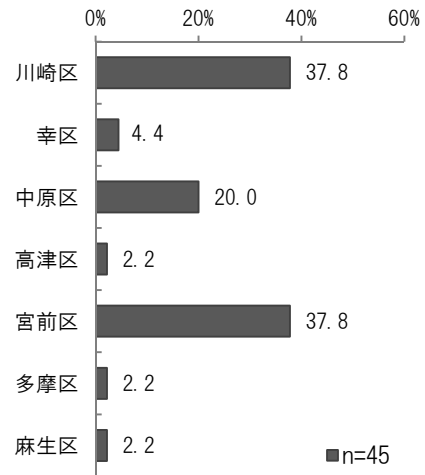
問 医療的ケアについて受診する医療機関はどちらにありますか。あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な所在地と医療機関名を記入してください。

- ⇒ 医療機関の所在地は「川崎市内」が61.6%であり、そのうち「川崎区」「宮前区」がともに37.8%となっている（図表Ⅲ-12、13）。

図表Ⅲ-12 受診する医療機関の所在地（複数回答）



図表Ⅲ-13 市内医療機関の所在区（複数回答）

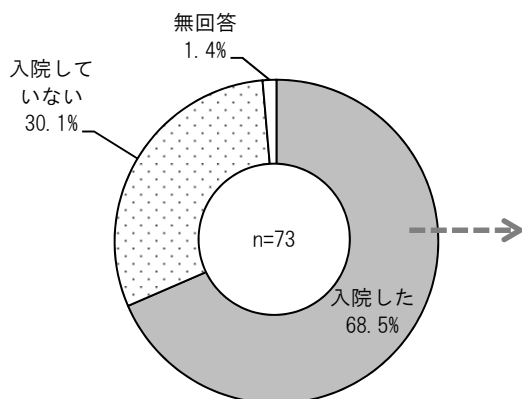


### 4. 心身の状態について

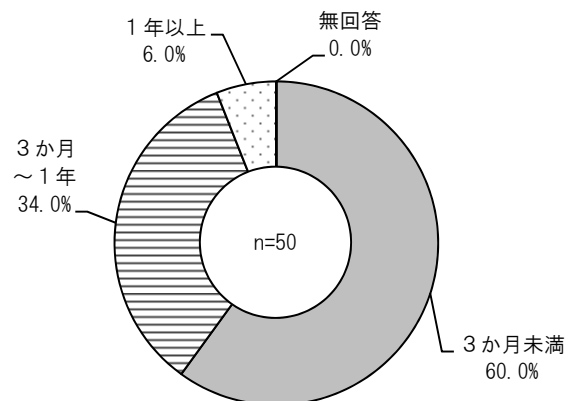
問 お子さまが生まれた時、新生児集中治療室（NICU）への入院経験がありましたか。また、入院された場合は入院期間に○をつけてください。

- ⇒ 出生時に新生児集中治療室に「入院した」が68.5%であり、そのうち入院期間は「3か月未満」が60.0%となっている（図表Ⅲ-14、15）。

図表Ⅲ-14 新生児集中治療室への入院経験



図表Ⅲ-15 入院期間

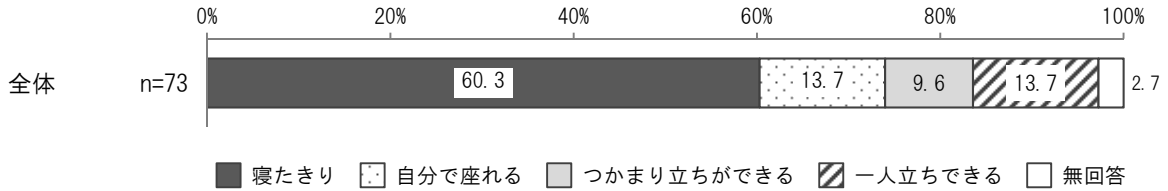


Ⅲ 医療的ケア児の保護者調査結果

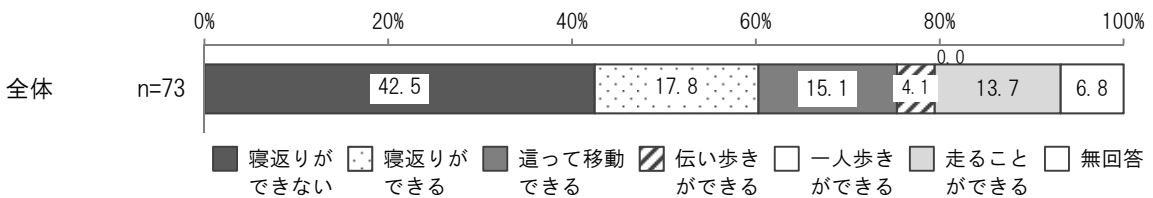
問 お子さまの心身の状態について、あてはまるものに○をつけてください。  
(それぞれ1つに○)

- ㊦ 「①姿勢」については「寝たきり」が 60.3%、「②移動」については「寝返りができない」が 42.5%となっている（図表Ⅲ-16、17）。
- ㊦ 「③食事」については「全介助」が 72.6%となっている（図表Ⅲ-18）。

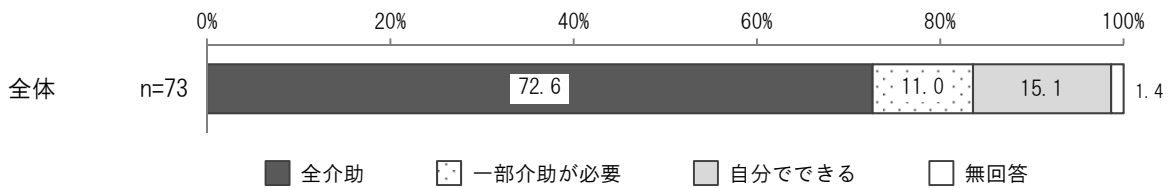
図表Ⅲ-16 ①姿勢



図表Ⅲ-17 ②移動

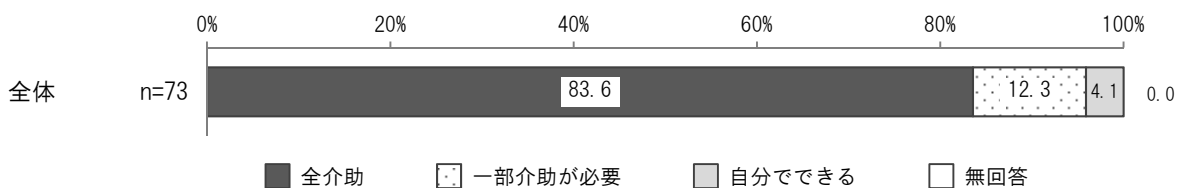


図表Ⅲ-18 ③食事

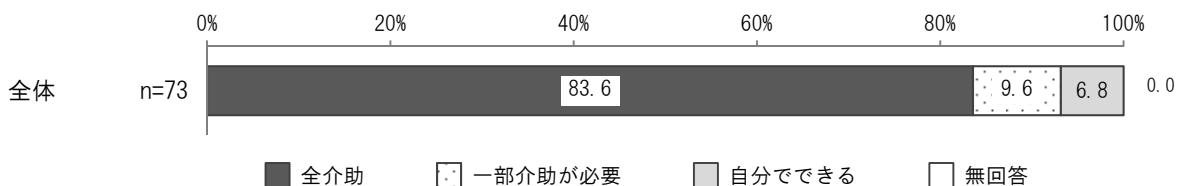


- ㊦ 「④排せつ」「⑤入浴」については「全介助」がともに 83.6%となっている（図表Ⅲ-19、20）。

図表Ⅲ-19 ④排せつ

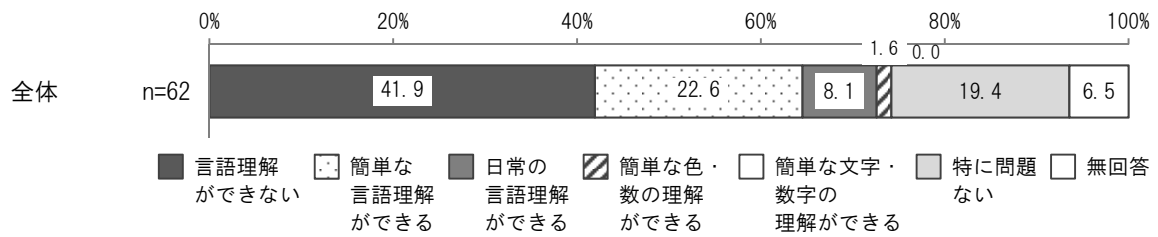


図表Ⅲ-20 ⑤入浴

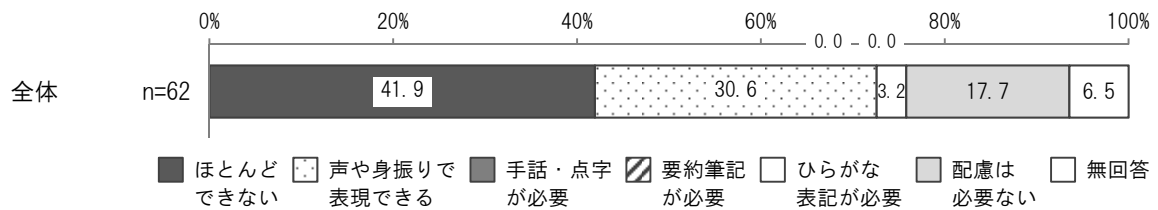


㊦ 3歳以上の子どものうち、「⑥言語理解」については「言語理解ができない」が41.9%、「⑦コミュニケーション」については「ほとんどできない」が41.9%となっている(図表Ⅲ-21、22)。

図表Ⅲ-21 ⑥言語理解 (3歳以上)



図表Ⅲ-22 ⑦コミュニケーション (3歳以上)



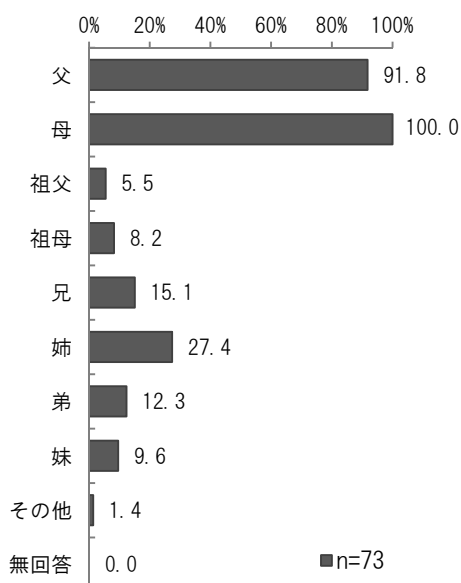
## 5. 家族や介護の状況について

問 医療的ケアを必要とするお子さまと同居するご家族はどなたですか。同居の方すべてに○をつけ、2人以上いる場合は人数を記入してください。(お子さまからみた続柄でお答えください。)

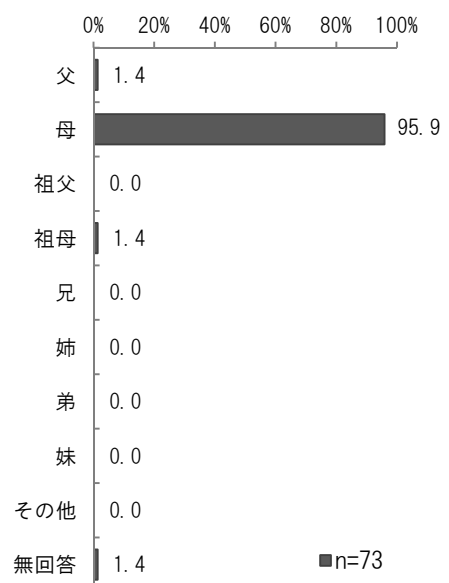
問 前問の方のうち、お子さまの「主たる介護者」はどなたですか。番号をご記入ください。

㊦ 同居家族は「母」が100.0%、「父」が91.8%であり(図表Ⅲ-23)、そのうち「主たる介護者」は「母」が95.9%となっている(図表Ⅲ-24)。

図表Ⅲ-23 同居する家族(複数回答)



図表Ⅲ-24 主たる介護者



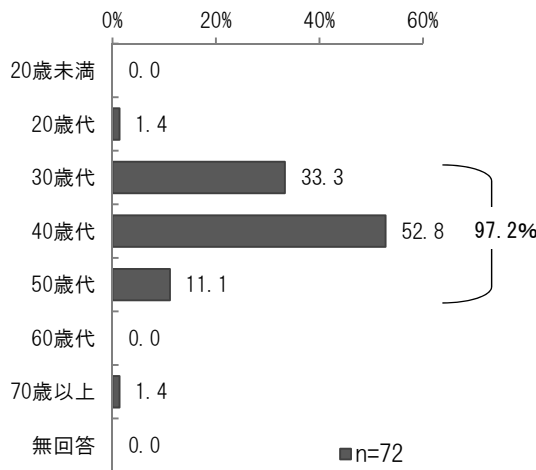
Ⅲ 医療的ケア児の保護者調査結果

問 「主たる介護者」の年代について、あてはまるものに○をつけてください。（1つに○）

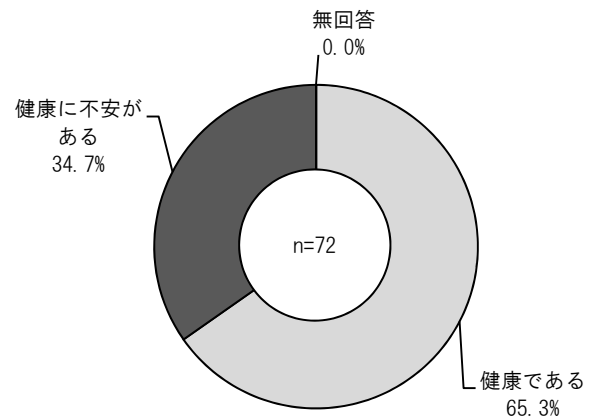
問 「主たる介護者」の健康状態について、あてはまるものに○をつけてください。（1つに○）

- 「主たる介護者」の年代は「40歳代」が52.8%と最も高く、「30歳代」から「50歳代」で97.2%となっている（図表Ⅲ-25）。
- 「主たる介護者」の健康状態は「健康である」が65.3%であり、「健康に不安がある」が34.7%となっている（図表Ⅲ-26）。

図表Ⅲ-25 「主たる介護者」の年齢



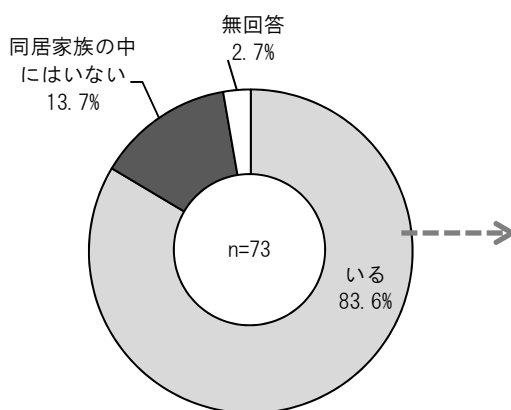
図表Ⅲ-26 「主たる介護者」の健康状態



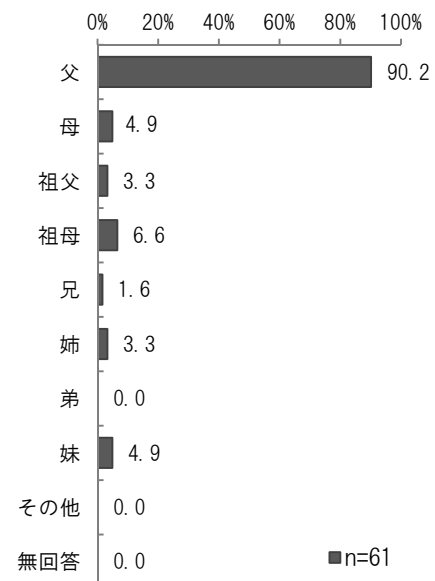
問 同居のご家族のうち、「主たる介護者」以外にお子さまを介護する方はいますか。（1つに○） いる場合はどなたですか。

- 「主たる介護者」以外に同居家族に子どもの介護をする人が「いる」のは83.6%であり、そのうち「父」が90.2%となっている（図表Ⅲ-27、28）。
- 一方、「同居家族の中にはいない」が13.7%となっている（図表Ⅲ-27）。

図表Ⅲ-27 同居家族のうち「主たる介護者」以外の介護者の有無



図表Ⅲ-28 「主たる介護者」以外で子どもの介護をする同居家族（複数回答）

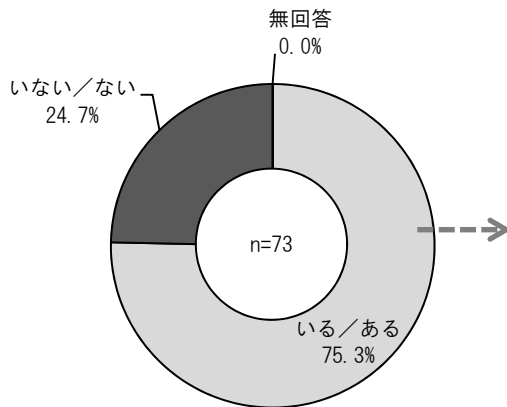


問 同居のご家族による医療的ケアが困難な場合、代わりにケアを依頼できる人、または利用できるサービスがありますか。(1つに○)

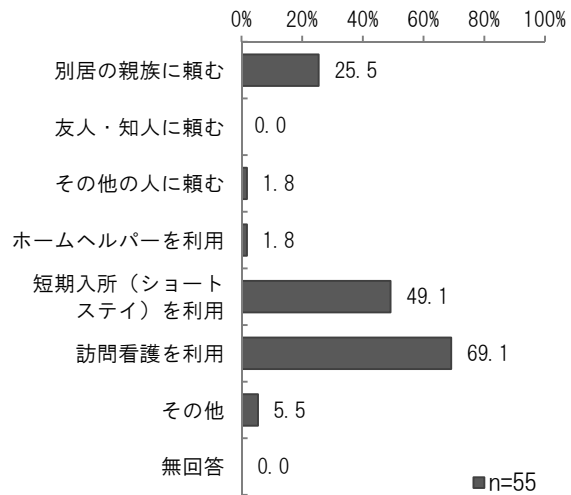
問 その場合、どなたに依頼したり、どのようなサービスを利用していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

⇒ 同居家族による医療的ケアが困難な場合に代わりに依頼できる人やサービスが「いる／ある」が75.3%であり、そのうち「訪問看護を利用」が69.1%となっている(図表Ⅲ-29、30)。

図表Ⅲ-29 代わりに医療的ケアを依頼できる人/サービスの有無



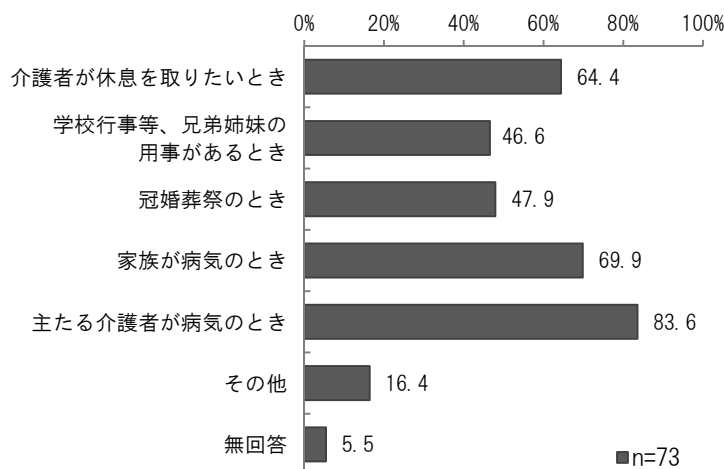
図表Ⅲ-30 代わりに医療的ケアを依頼できる人/サービス(複数回答)



問 医療的ケアの代わりに依頼したいと感じるのはどんなときですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

⇒ 医療的ケアの代わりに依頼したいと感じるのは「主たる介護者が病気の時」が83.6%と最も高く、次いで「家族が病気の時」が69.9%、「介護者が休息を取りたいとき」が64.4%となっている(図表Ⅲ-31)。

図表Ⅲ-31 医療的ケアの代わりに依頼したいとき(複数回答)



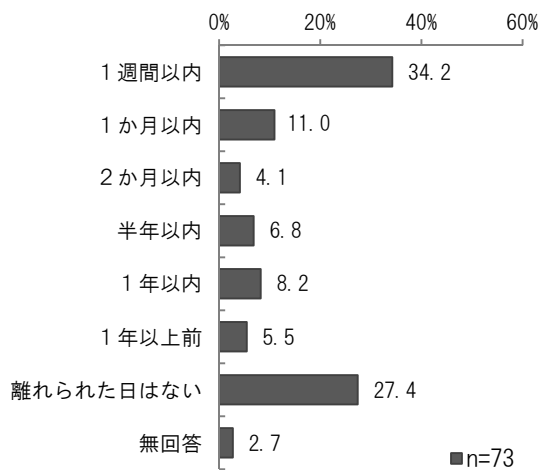
Ⅲ 医療的ケア児の保護者調査結果

問 「主たる介護者」が医療的ケアを含む介護から離れることができた直近の日はいつですか。（1つに○）

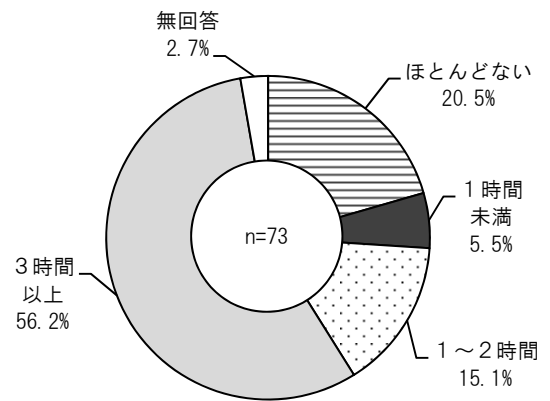
問 「主たる介護者」が1日の間に医療的ケアを含む介護から離れられる平均時間はどのくらいですか。（1つに○）

- 「主たる介護者」が医療的ケアを含む介護から離れることができた直近の日は、「1週間以内」が34.2%である。一方、「離れられた日はない」が27.3%となっている（図表Ⅲ-32）。
- 「主たる介護者」が1日の間に医療的ケアを含む介護から離れられる平均時間は、「3時間以上」が56.2%である。一方、「ほとんどない」が20.5%となっている（図表Ⅲ-33）。

図表Ⅲ-32 医療的ケアを含む介護から離れた直近の日



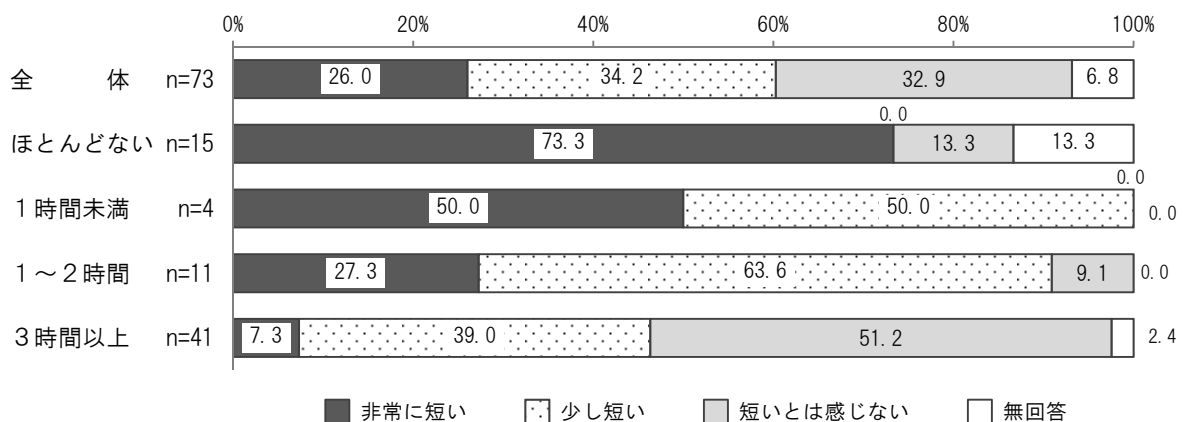
図表Ⅲ-33 1日のうち、医療的ケアを含む介護から離れる平均時間



問 前問で○をつけた時間について、どう感じますか。（1つに○）

- 医療的ケアを含む介護から「3時間以上」離れる人では「短いとは感じない」が51.2%であるが、「ほとんどない」人では「非常に短い」が73.3%となっている（図表Ⅲ-34）。

図表Ⅲ-34 介護から離れる時間についてどう感じるか（介護から離れる時間別）





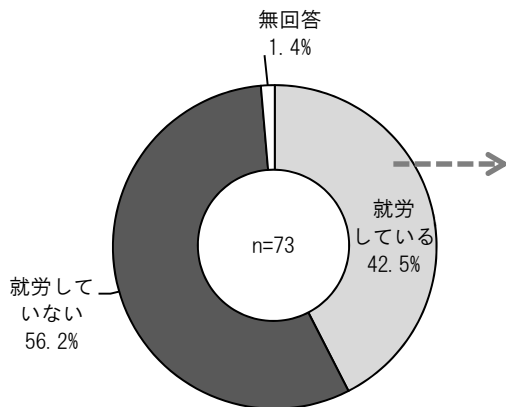
問 「主たる介護者」は現在就労していますか。（1つに○）

【「就労している」に○をつけた方にうかがいます。】

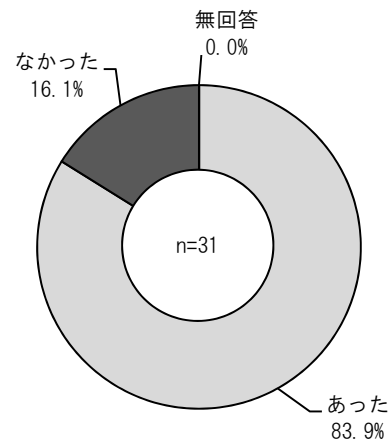
問 医療的ケアが必要なことによって、仕事の形態（常勤・非常勤、フルタイム・短時間労働等）への影響はありましたか。（1つに○） あった場合は、内容を具体的にご記入ください。

⇒ 「主たる介護者」の就労状況は、「就労している」が 42.5%であり、そのうち医療的ケアが必要なことによる仕事の形態への影響が「あった」のは 83.9%となっている（図表Ⅲ-35、36）。

図表Ⅲ-35 「主たる介護者」の就労状況



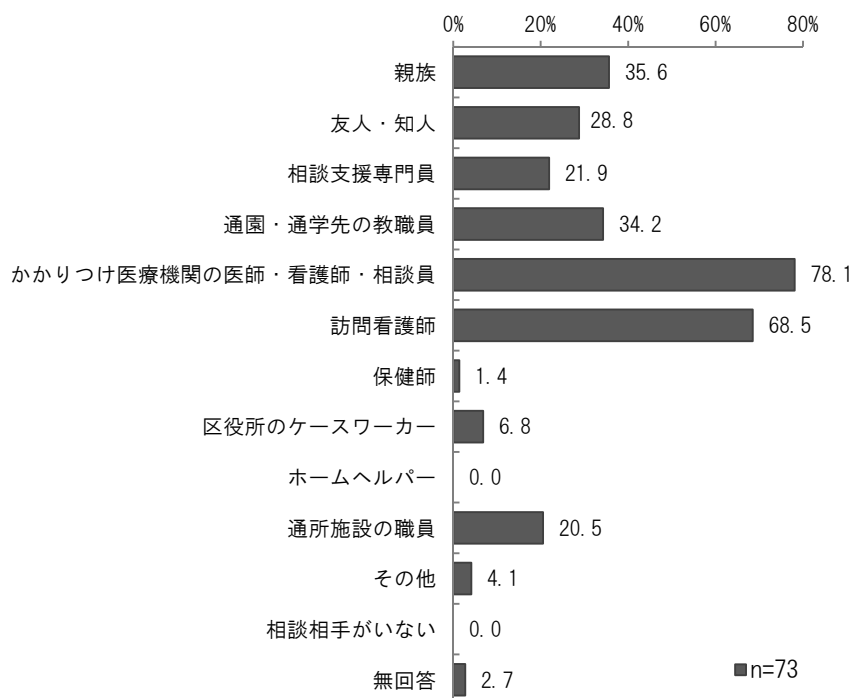
図表Ⅲ-36 仕事の形態への影響



問 医療的ケアについて相談できるご家族以外の相手はいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

⇒ 医療的ケアについて家族以外に相談できる人は、「かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員」が 78.1%と最も高く、次いで「訪問看護師」が 68.5%、「親族」が 35.6%、「通園・通学先の教職員」が 34.2%となっている（図表Ⅲ-37）。

図表Ⅲ-37 家族以外に医療的ケアについて相談できる相手（複数回答）

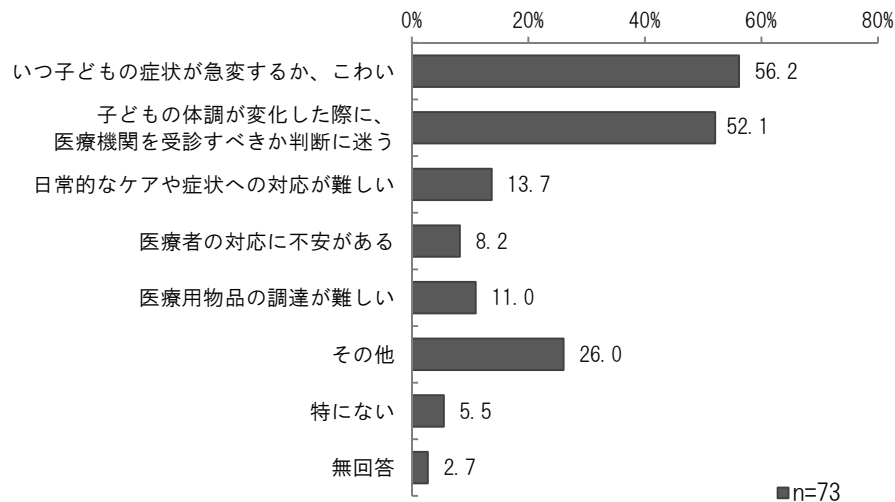


## 6. 医療的ケアに伴う家族の不安等について

問 お子さまの医療について不安なこと、困っていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ☞ 子どもの医療について不安なこと、困っていることは、「いつ子どもの症状が急変するか、こわい」が56.2%と最も高く、次いで「子どもの体調が変化した際に、医療機関を受診すべきか判断に迷う」が52.1%となっている（図表Ⅲ-38）。

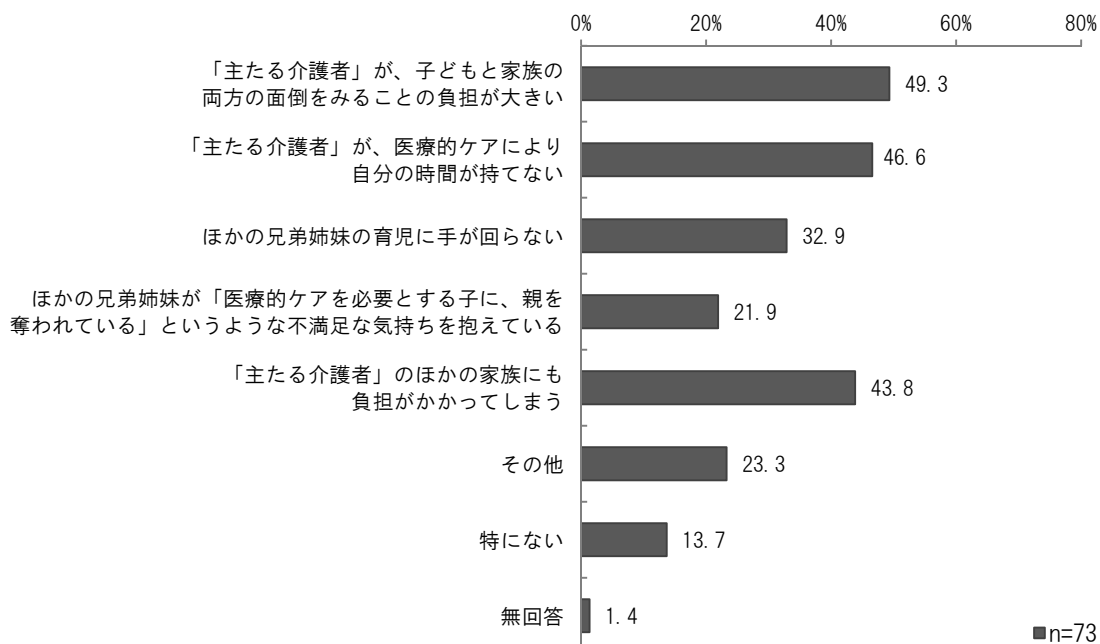
図表Ⅲ-38 子どもの医療について不安なこと、困っていること（複数回答）



問 一緒に暮らすご家族について不安なこと、困っていることは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ☞ 同居家族について不安なこと、困っていることは、「『主たる介護者』が、子どもと家族の両方の面倒をみることの負担が大きい」が49.3%と最も高く、次いで「『主たる介護者』が、医療的ケアにより自分の時間が持てない」が46.6%、「『主たる介護者』のほかの家族にも負担がかかってしまう」が43.8%となっている（図表Ⅲ-39）。

図表Ⅲ-39 同居家族について不安なこと、困っていること（複数回答）



## 7. サービス利用について

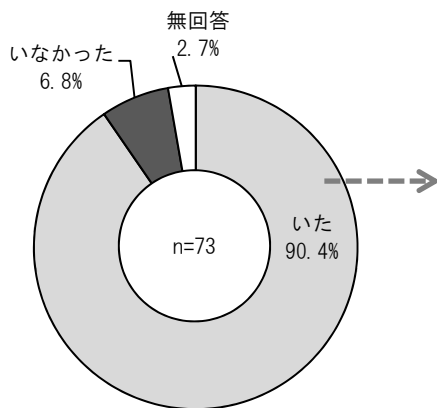
問 お子さまが医療的ケアが必要になったとき、サービス利用やその他のことについて相談できる相手がありましたか。（1つに○）

【「いた」に○をつけた方にうかがいます。】

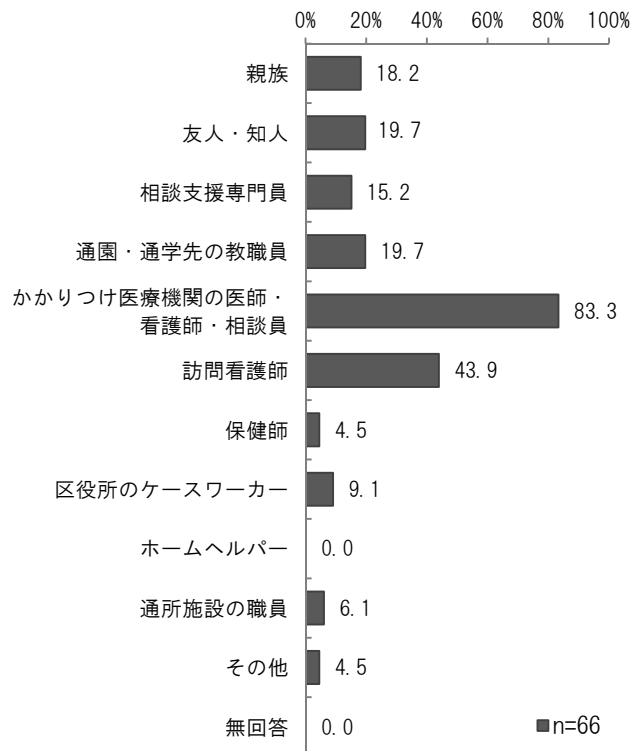
問 相談相手はどなたでしたか。具体的にご記入ください。

- ⇒ 医療的ケアが必要になったとき、サービス利用などについて相談できる相手が「いた」のは90.4%で、そのうち「かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員」が83.3%と最も高く、次いで「訪問看護師」が43.9%となっている（図表Ⅲ-40、41）。

図表Ⅲ-40 医療的ケアが必要になったときの相談相手の有無



図表Ⅲ-41 医療的ケアが必要になったときの相談相手（複数回答）



Ⅲ 医療的ケア児の保護者調査結果

問 お子さんは施設サービスを利用していますか。利用しているものすべてに○をつけてください。

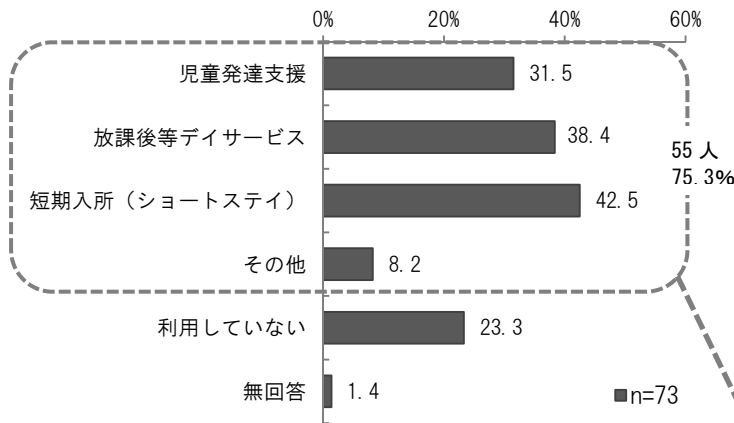
【施設サービスを利用している方にうかがいます。】

問 医療的ケアを理由に施設サービスの利用を断られたことがありますか。（1つに○）

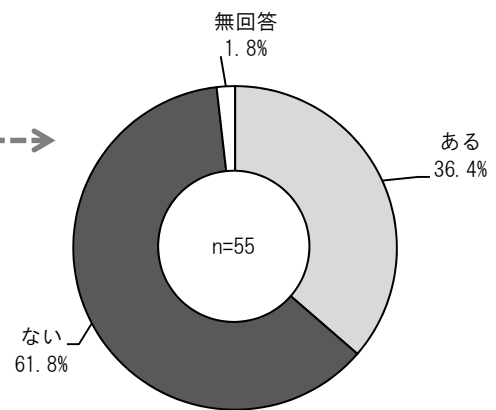
問 施設への送迎ができず施設サービスの利用をあきらめたことがありますか。（1つに○）

- 利用している施設サービスは、「短期入所（ショートステイ）」が42.5%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が38.4%、「児童発達支援」が31.5%となっている（図表Ⅲ-42）。
- 一方、「利用していない」が23.3%となっている（図表Ⅲ-42）。
- 利用している人のうち、医療的ケアを理由に利用を断られたことが「ある」のは36.4%である（図表Ⅲ-43）。
- また、施設への送迎ができず利用をあきらめたことが「ある」のは52.7%となっている（図表Ⅲ-44）。

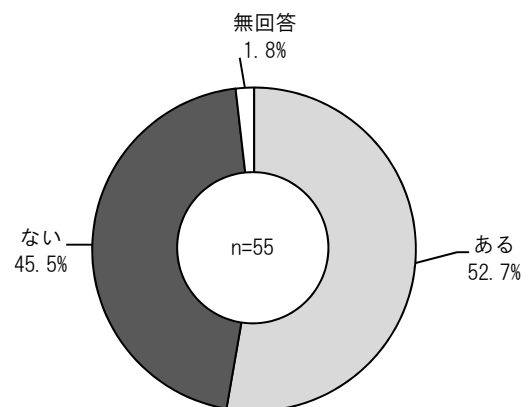
図表Ⅲ-42 利用している施設サービス（複数回答）



図表Ⅲ-43 施設サービスの利用を断られたこと



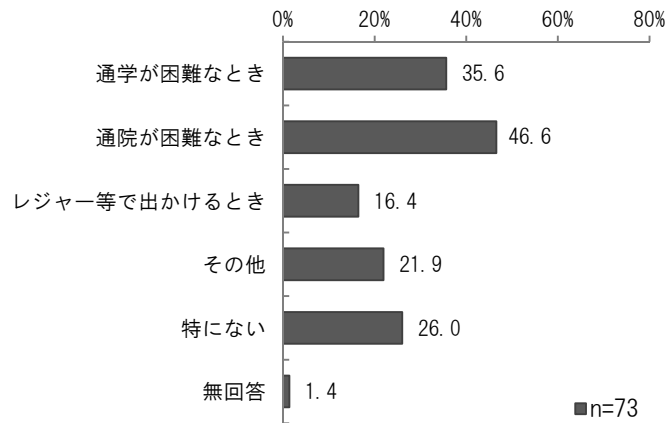
図表Ⅲ-44 施設への送迎ができず利用をあきらめたこと



問 介護者だけでは手が足りず、外出時サービスが必要だと感じるのはどんなときですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 外出時サービスが必要だと感じるのは「通院が困難なとき」が46.6%と最も高く、次いで「通学が困難なとき」が35.6%となっている（図表Ⅲ-45）。

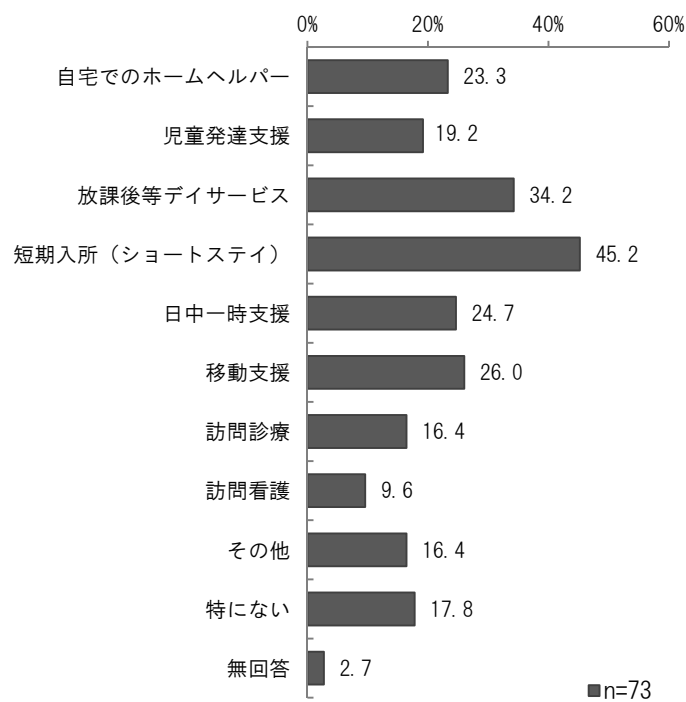
図表Ⅲ-45 外出時サービスが必要だと感じる時（複数回答）



問 お子さまの生活について、不足していると感じるサービスはどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 子どもの生活について不足していると感じるサービスは、「短期入所（ショートステイ）」が45.2%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」が34.2%、「移動支援」が26.0%となっている（図表Ⅲ-46）。

図表Ⅲ-46 子どもの生活について不足していると感じるサービス（複数回答）



## 8. ホームヘルパー等による医療的ケアについて

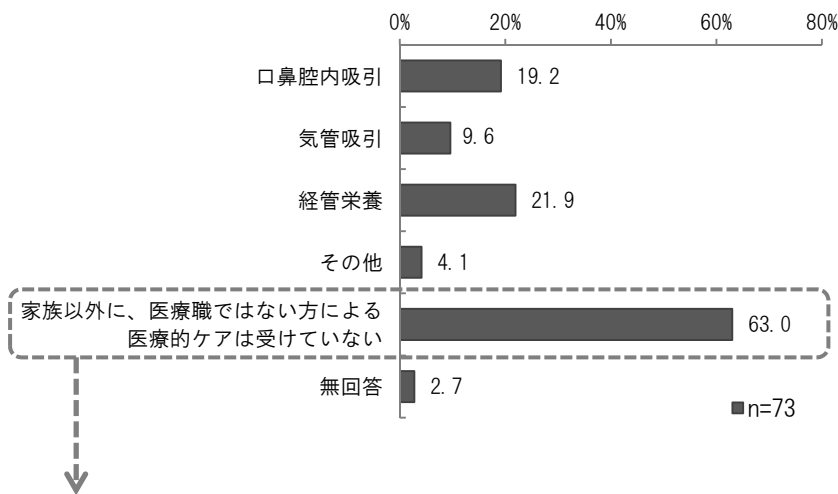
問 お子さまは、ホームヘルパー等の介護職員や学校の教員など、医療職ではない方による医療的ケアを受けていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

【「家族以外に、医療職ではない方による医療的ケアは受けていない」に○をつけた方にうかがいます。】

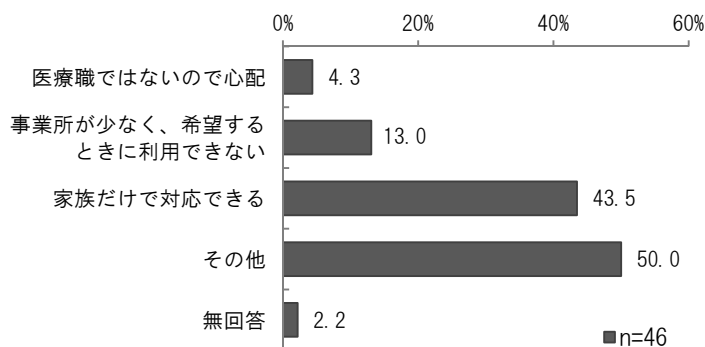
問 それはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 医療職ではない方から受けている医療的ケアは、「経管栄養」が 21.9%、「口鼻腔内吸引」が 19.2%である。一方、「家族以外に、医療職ではない方による医療的ケアは受けていない」が 63.0%となっている（図表Ⅲ-47）。
- 家族や医療職以外に医療的ケアを受けていない理由は、「家族だけで対応できる」が 43.5%となっている（図表Ⅲ-48）。

図表Ⅲ-47 医療職以外の方から受けている医療的ケア（複数回答）



図表Ⅲ-48 医療職以外から医療的ケアを受けていない理由（複数回答）

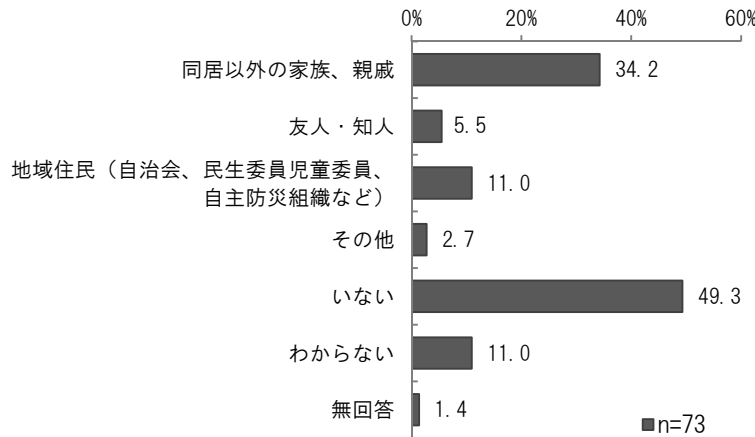


## 9. 災害対策について

問 災害時に、同居家族以外で手助けに来てくれる方はいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ☞ 災害時に同居家族以外で手助けに来てくれる人は、「同居以外の家族、親戚」が 34.2%となっている。一方、「いない」が 49.3%、「わからない」が 11.0%となっている（図表Ⅲ-49）。

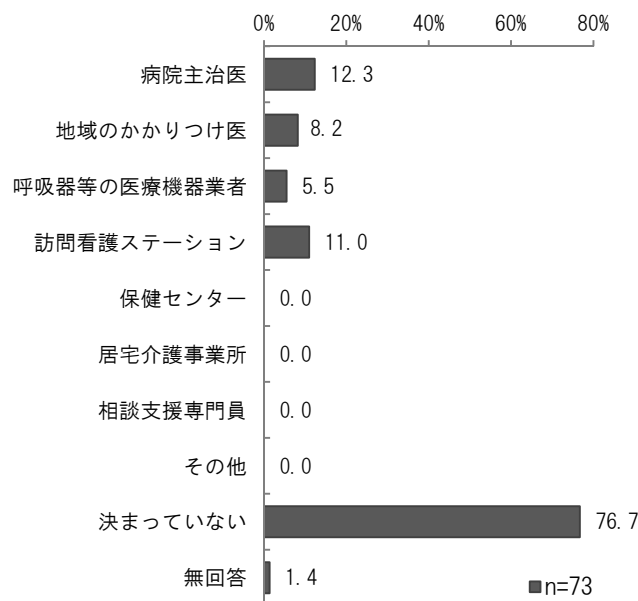
図表Ⅲ-49 災害時に同居家族以外で手助けに来てくれる人（複数回答）



問 災害時の関係機関の連絡体制について、家族や近所の方などの身近な方以外で緊急連絡先は決まっていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ☞ 災害時の身近な人以外の緊急連絡先は、「決まっていない」が 76.7%となっている（図表Ⅲ-50）。

図表Ⅲ-50 災害時の身近な人以外の緊急連絡先（複数回答）



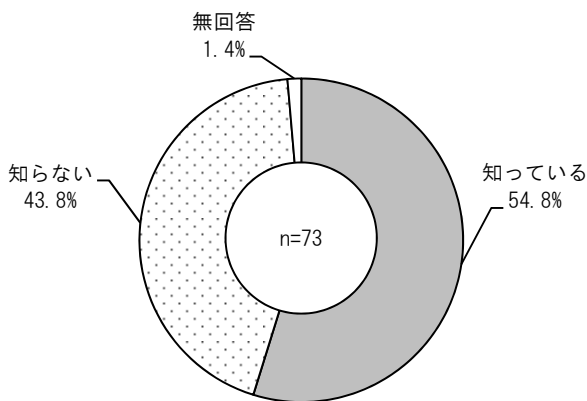
Ⅲ 医療的ケア児の保護者調査結果

問 豪雨や地震など災害の種類ごとの避難場所が川崎市地域防災計画で定められていることを知っていますか。(1つに○)

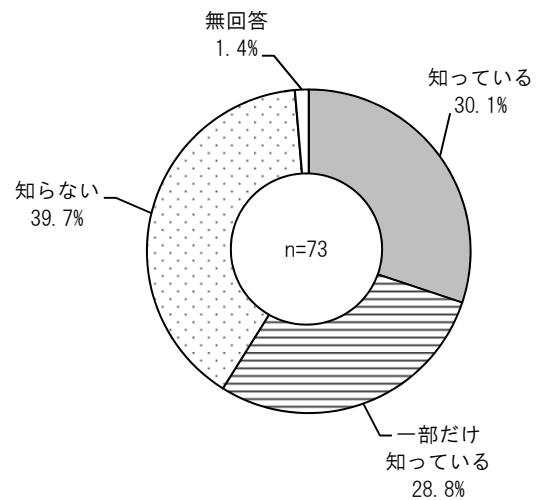
問 川崎市地域防災計画に定められている災害種類ごとに、どこに避難したらいいか知っていますか。(1つに○)

- 豪雨や地震など災害の種類ごとの避難場所が川崎市地域防災計画で定められていることについて、「知っている」が54.8%となっている(図表Ⅲ-51)。
- 川崎市地域防災計画に定められている災害種類ごとの避難場所を「知っている」が30.1%、「一部だけ知っている」が28.8%となっている(図表Ⅲ-52)。

図表Ⅲ-51 災害ごとの避難場所が川崎市地域防災計画に定められていることを知っているか



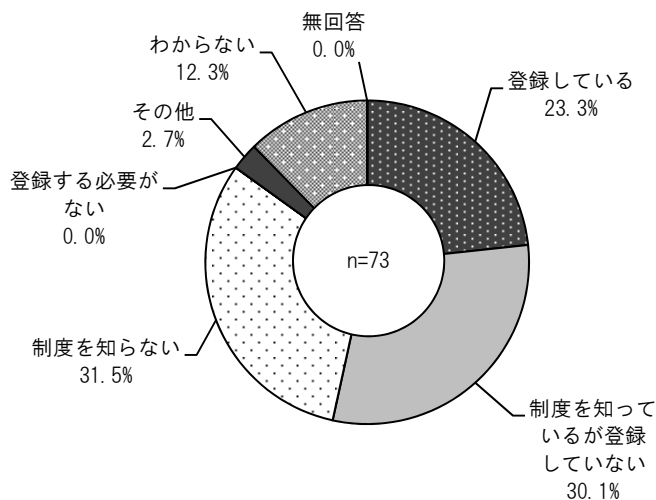
図表Ⅲ-52 災害ごとの避難場所を知っているか



問 川崎市の災害時要援護者避難支援制度に登録していますか。(1つに○)

- 川崎市災害時要援護者避難支援制度への登録状況は、「登録している」が23.3%であり、「制度を知らない」が31.5%となっている(図表Ⅲ-53)。

図表Ⅲ-53 川崎市災害時要援護者避難支援制度への登録状況





発達障害児（者）及び医療的ケア児実態調査  
報告書 【概要版】

令和2年3月

川崎市健康福祉局障害保健福祉部障害計画課  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地  
電話 044-200-3796 ファックス 044-200-3932